同窓会報

鳥羽商船同窓会
〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL (0599) 25-8000
FAX (0599) 25-8016
振替口座番号 00850-6-846

◆目　次◆

同窓会会長挨拶 ・・・・・・・・・・・2
校長挨拶 ・・・・・・・・・・・・・3
平成20年度会務報告 ・・・・・・・・4
平成21年度会務報告並びに計画 ・・4
平成20年度会計報告 ・・・・・・・・7
平成21年度予算 ・・・・・・・・・・9
同窓会役員・理事名簿 ・・・・・・10
同窓会の主催する活動 ・・・・・・11
学校だより ・・・・・・・・・・・12
支部だより ・・・・・・・・・・・16
クラス会 ・・・・・・・・・・・・20
新刊書・叙勲・表彰 ・・・・・・・21
訃報 ・・・・・・・・・・・・・・22
会員の移動等 ・・・・・・・・・・23
寄付金・会費納入一覧 ・・・・・・25
新入会員 ・・・・・・・・・・・・28
住所変更 ・・・・・・・・・・・・30
事務局だより ・・・・・・・・・・32
同窓会会則（規則1号）・・・・・・34
同窓会運営細則（改定）・・・・・・35

同窓会会長挨拶

S32N　辻　　裕

今回は鳥羽商船同窓会の組織と運営について説明し、会員の皆様の同窓会へのご理解とご協力をお願いしたいと思います。

同窓会は商船学科、電子機械工学科、制御情報工学科の卒業生で構成されます。

卒業生は6348名。そのうち死亡・行方不明が2410名で平成21年3月現在3938名の所在が確認され同窓会員として登録されています。内訳は商船学科2806名、電子機械592名、制御情報540名が全国に住んでおられます。全国に北海道29名、東日本909名、中部615名、四日市349名、伊勢志摩1247名、大阪369名、神戸275名、西日本145名の8支部を設けて会員全員がいずれかの支部に所属し同窓会活動に参加できるようになっています。

各支部は所属会員百人に一人の割合で「理事」を選出しその中から「支部長」を選出して同窓会活動と支部の運営にあたります。

同窓会の本部は母校の鳥羽にあり「同窓会事務局」を設けて会長の下で全国の支部を統括します。各支部から選出された理事が「同窓会理事会」を構成して同窓会の意思決定機関となります。

会長、副会長、事務局長の三役は理事会の議を経て選出され二年ごとに改選されます。また、会計監査、相談役、顧問などの同窓会役員も同様です。

「同窓会理事会」は毎年6月に召集され前年度の会務報告、会計報告、会計監査報告、今年度の会務、予算その他の懸案事項を審議のうえ承認します。

「同窓会総会」は毎年6月の理事会の日に開催され理事会の承認事項の報告がなされ引き続いて「懇親会」に移ります。懇親会には来賓多数をお招きして卒業年次・卒業学科を問わず多数の同窓生が全国から参集して来賓のご挨拶の後、懐かしい話に花を咲かせ和気藹々と懇親の会が盛り上がります。今年は地方で開催する二回目として中部支部の担当で6月14日「ＡＮＡホテルグランコート名古屋」で開催し来賓7名をお招きし同窓会員116名が参加して行われました。4月の選挙で名古屋市長に就任された河村たかし市長から来賓の祝辞を頂き、場は大いに盛り上がり賑やかに歓談して来年の再開を期して解散しました。

遠方から本部の総会に参加される方には多額の交通費がかかります。この負担を軽くするために「支部総会」を開催しています。各支部の主催で支部所属の会員全員を対象に開催するもので毎年一回必ず開催されています。同窓会懇親活動で最も重要視している会であり私も招待を受けてどの支部総会にも必ず出席して支部の皆さんとの懇親を深めています。これからも引き続き出席するつもりでいますので、今までの支部総会に参加されなかった方々も次の機会には是非出席していただいて懇親を図れるよう楽しみにしております。

次に同窓会の運営について説明します。

同窓会の運営は会計報告に記載の通り主として会員の会費で賄われています。年間2千円の会費ですが納入状況は芳しくありません。過去に滞納期間があって今年の会費を払おうと思っても過去の滞納分が気になってついつい「未納」になっている方もいらっしゃると思いますが、滞納分は気にせずに「今、払える金額」で結構ですから振込用紙に「いつからいつまでの分」と記入して送金していただくようお願いいたします。

同窓会本部の運営は無駄を省き年度会計報告に記載の通り支出は必要最低限にとどめています。同窓会報の発行は年に一回とし、会の活動状況を会員に伝える唯一の手段として会員全員に発送しているので「会報等関係費」は支出合計の2割近くに達する大きな支出になっています。この点にもご理解を頂いて会費を納入していただき会計の財政の改善にご協力くださるようお願いいたします。

同窓会本部・支部はすべて同窓会役員と事務局員のボランティア活動で維持されています。

役員や事務局員は会社・団体の現役で活躍されている方ばかりで本業の仕事の傍ら、会の目的である「会員相互の交流・親睦を図ると共に、母校の発展に寄与すること」を理解されて会務の遂行にボランティアで頑張っております。勿論、役員・事務局員は同窓会から一円の報酬も得ていないことを申し添えておきます。

以上、鳥羽商船同窓会の組織と運営について説明しましたが皆さんのご理解を得て、一人でも多くの会員が同窓会活動に参加されるよう希望してやみません。

同窓会会費

同窓会会費納入のお願い

円滑な同窓会運営の為会費納入にご協力ください。
滞納の方は分割でも結構です。

同窓会HP

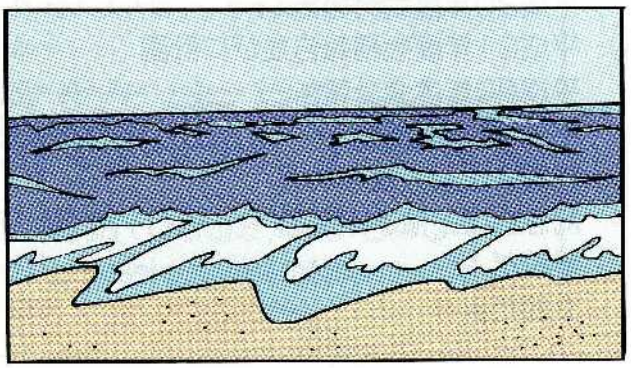
鳥羽商船同窓会ホームページ上へのスポンサー広告(バナー広告)募集中!!

詳しくはこの同窓会会報の33ページをご覧下さい。

海学祭

H21年11月1日(日)は・・・毎年恒例の「海学祭」です。

皆さん、ぜひご来場下さい。お待ちしております。



校長挨拶

山田猛敏

本年も６月１４日(日)に名古屋市金山駅前の名古屋都市センターおよびＡＮＡホテルグランコートにおいて開催された鳥羽商船同窓会総会・懇親会の席に出席させていただきました。同窓会諸兄におかれては関係各分野でご活躍され、ご壮健にお過ごしのことを何よりと存じております。また、日頃からの母校への学生課外諸活動支援、商船高専漕艇大会支援、卒業祝賀会支援、海学祭行事支援、近藤真琴翁記念碑周辺環境整備支援等々につきましては深く感謝しております。

早速ながら、この１年間の本校の動静についてお知らせします。先ず、昨年10月開催の高専ロボコン2008、東海北陸地区大会については、私立１校を含む10校による大会であり、10年に1度の運営当番が回ってきますが、同窓会より特別財政支援として100万円の援助をいただいたお陰をもちまして、9校からの参加分担費90万円、奨学後援会からの援助78万円、学校予算からの73万円、合計341万円の経費にて、伊勢の県営体育館において地区大会運営を無事に終了することができました。本校の出場2チームの成績は芳しくありませんでしたが、M科およびＩ科の5学年学生全員の協力を得て、教職員もほぼ全員が担当に就き、準備、競技進行、後片付けの3日間に亘る大任を無事に終えることができました。

同窓会からの特別支援に対しまして、この場を借りて厚く御礼申し上げる次第です。また、同窓会による鳥羽商船高専ＰＲ活動支援についてですが、本年１月の練習船海王丸遠洋航海出航式典に合わせて、東京港・船の科学館隣接の羊蹄丸展示スペースにおいて、鳥羽商船同窓会と攻玉社学園の共催による商船教育創始者・近藤真琴・岩崎弥太郎展が約2週間に亘って開催され、多くの支部ＯＢのご協力のもとで、多数の来館者に本校をアピールしていただきました。また、日本船主協会主催による商船高専5校の合同進学ガイダンスについては、10月(東京港)および11月(神戸港)の2回に亘って同窓会支部からの多くのご協力をいただきました。お陰様にてこれらのＰＲ活動への参加者の中から今年は5名が合格入学しております。この日本船主協会主催による合同進学ガイダンスは今年度も引き続き７月(東京港)および８月(博多港)に実施されることになっておりますので、同窓会支部からのご協力に期待をしております。

さらに日本財団助成事業として、同窓会の伊勢志摩支部による故郷の海を愛する会が、海に関わる3つの体験学習イベントを地元の伊勢・鳥羽･志摩の小中学生を対象に実施していただけることになりましたことも、誠に本校ＰＲ活動として有り難く思っています。鳥羽丸で行く津造船所見学と故郷の海山川、海の博物館体験学習、海学祭参加による商船学校と船と海という内容ですが、支部ＯＢのご協力に期待をかけております。

つぎに、卒業と入学についてですが、昨年9月の商船学科卒業者は20人と少なく、うち就職17人、大学編入学2人、専攻科進学1人でありました。続いて昨年10月の海事システム学専攻への入学は社会人1人が加わって2人でありました。また、今年３月の卒業者は電子機械工学科、制御情報工学科の合計70人であり、就職47人、大学編入学6人、専攻科進学17人の多さになり、続いての4月入学者は本科合計132人、生産システム工学専攻18人となりました。

課外活動では本年７月に弓削での5商船高専漕艇大会において、本校のＡ、Ｂ両チームが優勝し、結果としてＡチームは3連覇のあと1年おいて3連覇、Ｂチームは2連覇の成績をあげています。

トピックスとしては、海運企業に対しての運輸行政補助政策としてのトン数標準税制がスタートしたことに伴い、海上運送法および船員法の一部改正があり、その見なし総トン数法人税による低減への付帯条件として、船社に対しては日本籍船と日本人配乗船員の増および社船での学生乗船実習(社船実習)の引き受け義務化が発生致しました。乗船実習後半の6ヶ月について、航海訓練所の大型練習船実習の代わりに、現在のところ、商船高専５校で20人、大学2校で21人の実習学生が大型社船(練習船としての認定を受けた個別の社船)に分乗しており、本校からは大手3船社へ1人ずつ計3人が社船実習中であります。今のところ、３社では実習受入れ学生についてはすべて当該船社の採用内定者に限っています。

地域連携活動として、1月には伊勢市、本校および鈴鹿高専の3者にて産官学連携協定を結びました。さらに三重県、三重大学、志摩市等との防災協定取り決めの準備も検討しています。

本校では初の国際交流協定として、昨年8月末にシンガポールマリタイムアカデミーと学術教育国際交流協定を、本校から4人が出向いて行って締結しました。今年8月には九州地区の工業高専と合同にて語学研修プログラムに本校の本科および専攻科学生6人、教員3人が参加予定であり、12月にはＳＭＡから学生、教員の小グループが本校に表敬訪問と鳥羽丸研修のために出かけてくる予定です。

最後に、高専の高度化再編についてお知らせします。3月末の通常国会において(独)国立高専機構法に関する改正法案が成立し、平成21年10月に施行が決定しました。国立高専の高度化再編として4地区のそれぞれ2高専を統合し、一層の充実を図るというものです。宮城工業と仙台電波による仙台高等専門学校(名取キャンパスと広瀬キャンパス)、富山工業と富山商船による富山高等専門学校(本郷キャンパスと射水キャンパス)、高松工業と詫間電波による香川高等専門学校(高松キャンパスと詫間キャンパス)および熊本電波と八代工業による熊本高等専門学校(熊本キャンパスと八代キャンパス)を10月から開校し、平成22年4月から学生の受入れを開始することが決定されました。校長は1人で代表され、キャンパスには各1人の副校長配置とされ、またキャンパスに各3主事が置かれるものです。

さて、本校と鈴鹿高専については、両校によって平成18年10月からつごう９回の検討委員会と5回のＷＧおよび5回の機構本部ヒアリングを重ねてきました。両校で統合するとの方向を出せるまでには至っていません。機構本部にとっても4地区の統合決定と実施推進移行が現下の課題であると思われます。鈴鹿高専とは強力な連携高専モデルとしての検討を進めることとしています。この機会に本校としても、学年の3サイクル、15年ほど先に目標を据えて安定成長の経営ができるように、ここ1，2年において現3学科の見直しと鳥羽ブランドの再確認そして現在をベースに新しい需要発掘と安定成長が望めるような新分野について、例えば小コースの内部新設等も含めた構想について学内に独自の高度化再編検討ＷＧを立ち上げ、方向性を出してゆくこととしています。

学校を取り巻く環境条件は相変わらず厳しい状況にあり、少子化傾向による入学者確保の競争も一段と加速する中、本校の学生には確かな学力の保証と良きリーダーシップを授けたく、地域との連携もとりながら社会情勢の変化をとらえた特色ある高専運営に一丸となって努めていきます。今後とよろしくお願い致します。

本部報告

平成20年度会務報告(昨年度会報報告以降)

平成20年度第1回支部長会（於：鳥羽）

平成２０年１１月２日（日）午後13時から、母校の海学祭に合わせ百周年記念会館内会議室において開催され、本年６月の総会で、特別顧問に就任された母校の山田校長、伊藤教務主事、安念事務部長が来賓として臨席されました。

出席者は会長、副会長（2名）、支部長（６名）、会計監査（2名）、事務局（６名）、地元支部（理事３名）の１９名の出席で開催されました。

会長挨拶は、特別顧問の紹介にはじまり、会費納入率向上策検討依頼と、会長活動の報告も含まれておりました。

本年度、会長は、西日本支部、神戸支部、四日市支部、中部支部、伊勢志摩支部、関東支部の支部総会に出席し、多数の会員と親交を深め、各支部の状況も把握することができたと報告されました。

続いて特別顧問の学校長より、１．ロボコン大会等学校行事に対する多大の支援のお礼　２．高専統合の現状　３．落合名誉教授の「瑞宝小綬章」受賞決定の報告がありました。

審議事項

Ⅰ．高専統合

鳥羽商船と鈴鹿工業高専の統合は現在検討中とのことです。

「高専統合WG」（田中副会長を座長）は、関東支部を中心とし、「近藤真琴展」を船の科学館で、海王丸の出航式に合わせ開催し、多数の方々に「鳥羽商船」をアピールすることにより、統合を有利な方向に導く計画です。（費用は同窓会が支援することで、承認されました）

統合された場合は、「鳥羽キャンパス」でなく、「鳥羽商船キャンパス」として名を残したいとの意見が述べられました。（桑嶋副会長）

Ⅱ．会費納入向上策

会費の納入方法を検討し、納入率向上を図ります。又、データベースが正式に稼働し始めたので、詳しい分析を行います。

支部別納入状況データーは、支部長宛に送付する予定です。振込用紙は総会案内と会報送付時の２回送付します。

コンビニ振込等の他の決済方法も検討します。

Ⅲ．ホームページの活用

求人やバナー広告欄の活性化を図り、同窓会の収入増を図ります。各支部においてバナー広告の募集を活発に行い、収入増につなげたい。（会長名で各支部にお願い文書をお送りする）

Ⅳ．同窓会名簿について

２１年度卒業生までの追補版を作成しました。

２２年度には名簿の作成が必要となりますので、21年度会報発行後準備作業に入ります。

前回の名簿は装丁が非常に悪いので、次回は業者を変えて、複数業者の見積もりをとり、安価な作成方式とします。

Ⅴ．その他

①同窓会報発行（９月２２日）

②東海・北陸地区ロボットコンテスト支援（１０月１２日）

ロボットが故障しましたが、主幹校としてやり遂げました。

③「商船高専合同進学ガイダンス」支援

１０月２５日（東京）、１１月１日(神戸)において財団法人日本船主協会主催による、中学校進学担当教師や、中学生、父兄を対象とした進学案内の催しに、「関東支部と神戸支部」が協力しました。

④「商船教育創始者　近藤真琴・岩崎弥太郎展」

２１年1月１０日～1月２５日まで、東京都品川区の「船の科学館　羊蹄丸エントランスロビー」において、高専統合WGが関東支部の全面協力の下、「商船教育創始者展実行委員会」を結成し主催しました。同展覧会は、船の科学館、攻玉社、鳥羽商船高等専門学校の協力と、三菱資料館、三菱広報委員会、東京都公文書館、東京海洋大学、攻玉社学園、鳥羽商船高等専門学校、海の仕事.ＣＯＭ　より資料の提供を受け、実施されました。ご見学頂いたお客様は７００名を超え、近藤真琴翁の流れを汲む歴史ある学校であることを知らしめました。

⑤その他対外活動支援

ⅰ．全国商船高等専門学校カッター・レースを支援しました。

ⅱ．母校の商船学科及び工業系学科の卒業祝賀会に協賛しました。

ⅲ．全日本船舶職員協会の賛助会員となり、商船学科卒業生の入会勧誘に協力しました。

ⅳ．近藤真琴先生記念碑周辺整備事業（草刈2回）を実施しました。

ⅴ．全国規模の体育大会出場学生及び学術コンテスト入賞学生に奨励金を送呈しました。

ⅵ．母校の海学祭に協賛しました。（支部長会と同時開催）

ホームページの運用

本格運用を２０年４月１日とし、本部の連絡、各支部だよりなどを都度掲載しています。又、以前に発行した同窓会報が閲覧できるようになりました。

最近のホームページへの訪問者数は毎日約13－15名程度と少しずつですが増加傾向にあります。

ホームページの内容をもっと充実し、多くの会員が見に行きたくなるようなものにしたいと考えています。

求人情報、バナー広告を募集しております。

（１件年間３万円）

また、求人情報欄は、バナー広告がなくてもご利用いただけますので、会員相互の情報提供手段としてご使用ください。

同窓会データベース

過去のデータの整合と、住所等の訂正作業を実施しています。会報の送付時や総会の案内時に振替用紙と過去の納入記録を送付しております。「納入記録の誤り」や、「住所等の変更」がある場合は、同窓会事務局に連絡してください。

２０年度の総会案内時には、従来１００～１５０通の

未配達で戻されましたが、３０通ほどに減少いたしました。
　納入記録の整合も概ね完了いたしましたので、次回からはスムーズな業務になります。
ⅰ．総会資料にデーターベースを利用した会費納入分析を添付いたしております。
ⅱ．過去１０年分の納入状況を会員宛てに、通知しておりますが今後も同様の記載とします。
ⅲ．終身会員にご登録の済み方には、「終身会員」ですと記載します。
　振替用紙は、会員名簿の購入等の送金時にもご利用いただけますので、終身会員の方々にも送付いたします。

平成21年度会務報告並びに計画

平成21年度理事会・総会・懇親会（於：名古屋）

　6月14日、名古屋の金山において平成21年鳥羽商船同窓会理事会・総会・懇親会がありました。

（理事会）

「名古屋都市センター」の特別会議室において10：00から11：30迄、35名参加の下、以下の諸議案が討議、承認されました。

議案
1．平成20年度会務報告
2．平成20年度会計報告
3．平成20年度会計監査報告
4．平成21年度会務計画
5．平成21年度予算
6．同窓会運営細則の改訂
7．役員・理事の改選と承認
8．その他

同窓会運営細則の改定についてはP35を参照下さい。
2年毎の役員改選も行われ、辻会長が再任され、新たな役員・理事が選任・承認されました。P10の役員・理事名簿を参照ください。

（総会）

理事会に続き同じ場所で11：30から、113名参加の下、理事会決定事項の承認がされました。新しい役員の紹介もされました。
1月に東京で開催した商船教育創始者展の報告、21年度の事業計画の説明もありました。

（懇親会）

「ANA ホテルグランコート」において12：30から同窓会懇親会がありました。
113名の会員の参加に加え、来賓として母校校長・副校長・事務部長、攻玉社同窓会会長・事務局長、さらには河村名古屋市長、三ツ矢衆議院議員（代理）にも来ていただき盛大な懇親会となりました。
S19Nの裏山さんの乾杯の音頭で始まり、多いに旧交を温め、歓談し、楽しいひと時となりました。S8Eの高山さんの年齢を感じさせない元気なお話もありました。
最後には校歌・寮歌の合唱で散会となりました。
平成に卒業した若い会員の参加があり嬉しいことでしたが、M科I科の会員の参加も大いに期待しています。

平成21年度会務計画・実績

　以後、今後の計画であり、一部は実施済みです。

支部長会
　平成２１年１０月３１日（土）海学祭前日
　於：「百周年記念会館」

会報の発行
　平成２１年８月から９月初旬に発行予定

対外支援活動（平成21年度行事予定参照）
①全国商船高等専門学校カッター・レース支援
②母校の商船学科及び工業系学科の卒業祝賀会に協賛する。
③全日本船舶職員協会の賛助会員となり、商船学科卒業生の入会勧誘に協力する。
④近藤真琴先生記念碑周辺整備事業（草刈2回）を実施する。
⑤全国規模の体育大会出場学生及び学術コンテスト入賞学生に奨励金を送呈する。
⑥日本財団補助事業（故郷の海を愛する会＝伊勢志摩支部有志）
　ⅰ．練習船「鳥羽丸」で行くユニバーサル造船所見学（8月7日済）
　ⅱ．海の博物館見学と外国航路船長の話(8月21日済)
　ⅲ．海学祭と学校の歴史・海の話（11月1日）
⑦母校の海学祭に協賛する。(11月1日)
※支部長会は前日10月31日開催

平成21年度行事実績・予定

番号	月・日	時　間	同窓会行事	学校行事	備　考
1	4月7日(火)			本科・専攻科入学式	
2	6月2日(火) 8月27日(木)		近藤真琴記念碑周辺草刈 (福祉法人済美学園に依頼)		
3	6月14日(日)		理事会、総会、懇親会		名古屋
4	6月27日(土) 28日(日)			東海地区高専大会	岐阜
5	7月11日(土) 12日(日)			全国商船高専漕艇大会 東海地区高専大会	弓削。 鈴鹿等
6	7月14日(火)			校内カッター大会	鳥羽
7	8月1日(土) ～3日(月)			カッター巡航	
8	9月		同窓会報発行		
9	9月16日(水)		卒業式 (会長・地元支部・事務局)	商船学科卒業式・専攻科 (海事システム学)修了式	鳥羽
10	10月5日(月)			専攻科(海事システム学) 入学式	鳥羽
11	10月31日(土)		支部長会	海学祭	鳥羽
12	11月1日(日)		海学祭支援	海学祭	鳥羽
13	3月3日(水)		卒業式	入学試験合格者発表	鳥羽
14	3月5日(金)		(会長・地元支部・事務局)	卒業式(M・I)・ 修了式(生産シムテム学)	鳥羽
15	8月、11月		故郷の海を愛する会の事業		鳥羽

平成22年度行事予定

1	6月13日(日)		同窓会総会・ 理事会（関西開催予定）		

平成20年度会計報告

平成20年度収支計算書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

1. 収入

科　目	執行予算	実　績	予・実差	備　考
受取入会金	96,000	92,000	4,000	20+34+38合計92名入会
受取会費（新入会員）	384,000	368,000	-16,000	新入会員は入会時に2年分
受取会費(一般、終身、特別会員)	4,000,000	3,167,480	-832,520	19年度よりは増えたが、予定額に達せず。
受取利息	100,000	58,337	-41,663	
会員名簿売上	300,000	294,000	-6,000	新入会員92名+正会員6名
記念誌売上	0	0	0	
寄付金収入	500,000	85,000	-415,000	
バナー広告負担金	1,500,000	120,000	1,380,000	50件計画するも、4件のみ。
その他	0	0	0	
20年度収入合計	6,880,000	4,184,817	2,695,183	収入が計画を大幅に下回った

実績が予算に満たない場合－表示

1. 支出

科　目	執行予算	実　績	予・実差	備　考
支出負担金	500,000	440,000	-60,000	卒業式祝い金、除草代、国体参加支援等
総会費	1,200,000	1,461,076	261,076	懇親会負担、会場代など
支部活動費	830,000	830,000	0	会員1名￥２００.
会報等関係費	1,250,000	1,040,682	-209,318	
慶弔費	50,000	0	-50,000	
役員旅費交通費	1,000,000	928,000	-72,000	
通信費	80,000	13,470	-66,530	
事務用品費	100,000	21,485	-78,515	
会議費	100,000	93,280	-6,720	
会務運営費	10,000	18,910	8,910	残高証明、貸金庫代など
外部委託費	680,000	674,550	-5,450	NCT　事務局業務委託+ホームページ管理
対外活動費（特別費用含む）	250,000	304,454	54,454	近藤真琴展など
会員名簿関連費	0	172,725	172,725	追補版印刷費用
記念誌関連費	0	0	0	
予備費	530,000	0	-530,000	
雑支出	0	0	0	
20年度支出合計	6,580,000	5,998,632	-581,368	支出は計画をやや下回った

実績が予算に満たない場合－表示

名簿売上げ	300,000	294,000	財産としての名簿が売上で現金化
本年度収支		-2,107,815	単年度収支で大幅ロス

3. 特別支出

ロボコン支援金	1,000,000	1,000,400	10年に一度の東海北陸地区大会当番校であった

財産目録

	平成20年3月31日	平成21年3月31日	差　額	備　考
第三銀行（定期預金）	7,699,492	4,366,658	-3,332,834	定期の利息は　￥328+￥20,215
第三銀行（普通預金）	86,568	39,020	-47,548	
三重銀行（定期預金）	5,014,038	5,028,078	14,040	定期の利息
郵貯銀行（定期預金）	10,275,115	9,977,451	-297,664	解約時の利息￥77,451。1年間増加￥6,816
郵貯銀行（普通貯金ー1）	564,084	3,049,513	2,485,429	
百五銀行（定期預金）	5,000,000	5,014,038	14,038	利息分が増加
百五銀行（普通預金）	535,991	807,335	271,344	
			0	
郵便振替残高	1,945,050	24,030	-1,921,020	
			0	
現金	0	0	0	手持ち現金を無くし、都度引出・記帳
			0	
合計	31,120,338	28,306,123	-2,814,215	
			0	
会員名簿　229 --> 131	687,000	393,000	-294,000	92名+6名　購入、131冊残り
記念誌　114 --> 114	456,000	456,000	0	114冊残り
			0	
合計	32,263,338	29,155,123	-3,108,215	減少

会計監査報告

平成20年度期初、期末の銀行等の残高証明、会員名簿等の手持残、手持ち現金の確認を行い、今年度収支に関しては領収書、金銭出納帳、各銀行などの出納記録と照会して監査した結果、いずれも正確かつ適正であったことを認めます。

平成２１年５月３１日

会計監査　　飛田　喜八郎

会計監査　　川口　心也

平成21年度予算

平成21年度予算

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

1. 収入

科　目	H20実績	H21予算	差　額	備　考
受取入会金	92,000	112,000	20,000	39+34+39合計112名入会見込
受取会費（新入会員）	368,000	448,000	80,000	新入会員は入会時に2年分
受取会費(一般、終身、特別会員)	3,167,480	3,500,000	332,520	昨年度より多くの会費収入を見込む
受取利息	58,337	60,000	1,663	昨年並
会員名簿売上	294,000	351,000	57,000	新入会員112名＋正会員5名
記念誌売上	0	0	0	
寄付金収入	85,000	200,000	115,000	
バナー広告負担金	120,000	600,000	480,000	20件にて計画
その他	0	0	0	
21年度収入合計	4,184,817	5,271,000	1,086,183	昨年度より多くの収入を見込む

今年度予算が昨年度実績に満たない場合－表示

2. 支出

科　目	H20実績	H21予算	差　額	備　考
支出負担金	440,000	440,000	0	卒業式祝い金、除草代、国体参加支援等
総会費	1,461,076	1,200,000	-261,076	懇親会負担、会場代など
支部活動費	830,000	830,000	0	支部活動　会員1名￥200
会報等関係費	1,040,682	1,000,000	-40,682	昨年並
慶弔費	0	25,000	25,000	
役員旅費交通費	928,000	600,000	-328,000	大幅節減する
通信費	13,470	14,000	530	
事務用品費	21,485	20,000	-1,485	
会議費	93,280	90,000	-3,280	
会務運営費	18,910	16,000	-2,910	残高証明、貸金庫代など
外部委託費	674,550	375,000	-299,550	NCT　委託費の節減に努める
対外活動費（特別費用含む）	304,454	200,000	-104,454	
会員名簿関連費	172,725	0	-172,725	22年度に名簿発行を計画。
記念誌関連費	0	0	0	
予備費	0	110,000	110,000	
雑支出	0	456,000	456,000	記念誌が売れ残っており、全数損失処理
21年度支出合計	5,998,632	5,376,000	-622,632	

今年度予算が昨年度実績に満たない場合－表示

名簿売上げ	294,000	351,000	57,000	財産としての名簿が売上で現金化
本年度収支	-2,107,815	-456,000		手持ち記念誌全数を損失処理する費用

21年度役員・理事名簿

平成21年6月14日

本部

会長	1	辻　裕	S32N
副会長	4	中澤　昌信	S37N
		藤本　昌之	S42N
		竹川　俊幸	S42E
		田中　三郎	S42N
相談役	5	松本　暢生	S26N
		桑嶋　収平	S31N
		菅原　昌男	S33N
		松浦　肇	S36N
		山田　岑生	S37E
会計監査	2	飛田喜八郎	S36E
		川口　心也	S40E
事務局長	5	金田　護	S42N
事務局		武部　二三男	S38N
		溝井　昇	S42E
		江崎　隆夫	S44E
		山口　伸輔	S48N
学校連絡担当	1	鈴木 秀司	S48N

顧問

名誉顧問	1	落合　弘明	前同窓会長
特別顧問	3	山田　猛敏	学校長
		佐藤　宗男	副校長
		安念　英憲	事務部長

支部

理事数	48	西日本	2	神戸	5	大阪	6	伊勢志摩	13	四日市	4	中部	6	東日本	10	北海道	2
支部長		福岡　健彦	S33N	奥　正夫	S32N	岡崎　和清	S48E	古川　昭一	S30E	室　博也	S55N	宗接万太郎	S48N	大橋　秀章	S49N	奥田　宣夫	S48E
理事		福岡　健彦	S33N	西村　潔	S33E	藤本　昌之	S42N	古川　昭一	S30E	中澤　昌信	S37N	竹川　俊幸	S42E	辻　裕	S32N	奥田　宣夫	S48E
		山下　文徳	S41E	小澤　剛	S36E	岡崎　和清	S48E	山神　偵之亮	S30E	山田　岑生	S37E	小林　正司	S43N	菱田　司	S35E	吉田　均	S49N
				(籠田弘之)	S39N	岡室　孝美	S52N	大西　彰夫	S36N	室　博也	S55N	菅沼　延之	S48N	岩田　仁	S38E		
				(藤井俊明)	S39E	村田　佳久	S55N	武部　二三男	S38N	西井　育央	S61E	宗接万太郎	S48N	可児　紘之	S39E		
				(北川哲男)	S43N	国安　政幸	S58V	金田　護	S42N			加塚　伸吾	S52E	中野　正義	S41N		
				坂井　敏	S52E	福田　美和	H7N	溝井　昇	S42E			荻野　武彦	S53N	田中　三郎	S42N		
								江崎　隆夫	S44E					水野　正治	S43N		
				( )=新規 2009年				岡本　楠清	S47E					大橋　泰夫	S48N		
				6月より有効予定				山口　伸輔	S48N					大橋　秀章	S49N		
								橋本　晴行	S48E					菅原　秀樹	S51N		
								内山　善勝	S48E								
								上村　健太	S63E								
								小田　純矢	H8E								

同窓会の主催する活動

母校の発展と海事思想の普及のため、同窓会が主催して以下の活動を行いました。
今後とも同様の活動を継続して行いたいと考えます。
関係する記事は会務報告・会務計画、支部だより等にも記載があるので参照ください。
又、同窓会のホームページにも記事がありますので見てください。

商船高専合同進学ガイダンス

2008年10月25日　於：東京
2008年11月01日　於：神戸
2009年 7月25日　於：東京
2009年 8月 8日　於：福岡

これは日本船主協会が主催する中学校の進学担当教師や中学生・父兄を対象とした進学案内の催しですが、東日本支部、神戸支部、西日本支部が参加しました。

特に東日本支部では、支部全員が一丸で何かすることを目的とし、全員が活動に参加する方針で、各自が近所の中学校に資料を配布するなど積極的に活動しました。

学校によればガイダンスの効果で21年度5名が入学したそうです。

船員教育創始者　近藤真琴・岩崎弥太郎　展

（2009年1月10日～25日　於：東京）

高専統合WGが関東支部の全面協力の下、「商船教育創始者展実行委員会」を結成し、東京の「船の科学館」で海王丸の遠洋航海出港式に合わせ、同館敷地内の係留船羊蹄丸のロビーでパネル展を主催しました。

資料の提供など、攻玉社を始めとして多くの団体のご協力を得て開催することができました。

高専機構・航海訓練所・日本船主協会・日本機関士協会・攻玉社を来賓としてお迎えし、700名をこえる来訪者があり、成功裏に終了しました。

故郷の海を愛する会の活動

2009年8月 7日　①練習船「鳥羽丸」で行くユニバーサル造船所見学
2009年8月21日　②海の博物館見学と船、海の話
2009年11月1日　③海学祭と学校の歴史・海の話

日本財団のすすめている「海・川ってこんなに面白い」助成金制度を利用させてもらい、伊勢志摩支部の有志で立ち上げた「故郷の海を愛する会」が上記の事業を計画し、主催して、2件は無事終了しました。

①では伊勢・鳥羽・志摩地区の50名の小中学生が参加、鳥羽丸での航海を体験し、ユニバーサル造船での大型船の建造を見学しました。

②では同様に50名の小中学生が参加、海の博物館を見学、船や海の話を聞き、ろこぎ体験、貝を用いたマグネット作り体験をしました。

それぞれの活動に多くの同窓生がボランティアとして参加してくれました。

③はこれからですが、多くの小中学生に楽しんでもらえることを期待します。

於：鳥羽丸

於：海の博物館

学校だより

平成20年9月～平成21年8月

S48N　鈴木　秀司

◎ 年間行事（暦順に掲載）

平成20年度商船学科卒業式・専攻科（海事システム学専攻）修了式　2008／9／18(木)

第37回商船学科卒業証書授与式・第2回専攻科（海事システム学専攻）修了式が10時30分より第２体育館で、来賓・保護者・教職員及び在校生等多数参列のもとに行われました。本年度は航海コース9名、機関コース11名、専攻科修了生5名で山田校長よりそれぞれ卒業証書・修了証書が手渡されました。山田校長は鳥羽のこれまでの勉学をベースにして、明日からはそれぞれの道において、人としても技術者としても、自分というものを一歩また一歩と向上させ、周囲へも貢献しつつ、初心を忘れることなく、為せば成の前向きの精神をもって歩んで行ってほしい。鳥羽商船高等専門学校は母校であり、旅立ちの母なる港、母港でもあります。成長した懐かしい顔をいつの日か見せてほしい。と式辞で餞の言葉を贈られ、卒業生・修了生はそれぞれの人生航路に巣立って行きました。

海学祭　2008／11／1(土)、2(日)

今年度は、「君に見せたい祭がある」というテーマで開催されました。学科紹介コーナー、進学相談コーナー、鳥羽丸一般公開・体験航海等の催し物、同窓会による100周年記念資料館2階資料室の公開、各種模擬店も用意され当日は、多数の来校者で賑わいました。

卒業式（電子機械工学科、制御情報工学科）並びに専攻科（生産システム工学）修了式　2009／3／6(金)

3月6日(金)電子機械工学科34名、制御情報工学科38名の卒業証書授与式及び専攻科（生産システム工学専攻）10名の修了証書授与式が挙行されました。大学3年への編入学はM科3名、I科3名、本校専攻科への進学はM科7名、I科10名で専攻科修了生から3名が大学院に進みました。

平成21年度入学式　2009／4／7(火)

４月７日（火）本校第２体育館において平成２１年度本科並びに専攻科の入学式を挙行いたしました。

本科生１３２人（S：41名、M：48名、I：43名）、専攻科生１８人の計１４０人が入学いたしました。

式では、山田校長の入学許可の後、山田校長から、「本校で何を学び、どのような技術を習得したいのか自分の目標をしっかりと定め、初心を忘れることなく充実した学生生活とするため努力され、クラブ活動にも積極的に参加するように」と式辞の後、在校生代表商船学科機関コース5年の金子将也君の歓迎の辞、新入生代表商船学科の宮嵜芽生さんの「入学生代表宣誓」、専攻科の土井根礼音さんの代表挨拶と続き、式は厳かのうちに終了いたしました。

新入生オリエンテーション　2009／4／23(木)、24(金)

奈良県の国立曽爾青少年自然の家で新入生を対象としたオリエンテーションが行われました。ハイキング、校長先生による校祖近藤真琴先生に関する講話、班別のテーマ討論・発表などが行われました。新しい友と交流を深めると共に今後の高専生としての生活にそれぞれの想いを描いたことでしょう。

高専体育大会　2009／7／4(土)、5(日)

第47回東海地区国立高等専門学校体育大会が、鈴鹿高専主管で種目ごとに東海地区の各高専で開催されました。本校の活躍では、豊田市西部体育館で行われた卓球で男子団体の部で優勝、沼津高専で行われた水泳で男子100m背泳、女子50m背泳で1位となりました。これらの選手は8月18日(火)~28日(金)にかけて開催される全国大会（都城高専主管）へ出場することになります。なお、全国大会へ出場する選手には、一人当たり5000円の褒賞金が同窓会辻会長より送られました。

全国商船高専漕艇大会　2009／7／11(土)、12(日)

第44回全国商船高専漕艇大会が弓削商船高専主催で開催されました。カッターの部においては、高学年を中心とするAチーム、低学年を中心とするBチームともに優勝し、それぞれ3連覇、2連覇を達成しました。
高学年を中心としたAチームは決勝レースで２位の弓削商船に約２０秒差で優勝し、低学年を中心としたBチームは予選で２位となったものの、タイムが上位であったので決勝に進み、約３０秒の大差をつけて優勝しました。またBチームの決勝タイムは、他高専Aチームのタイムを上回る好成績でした。

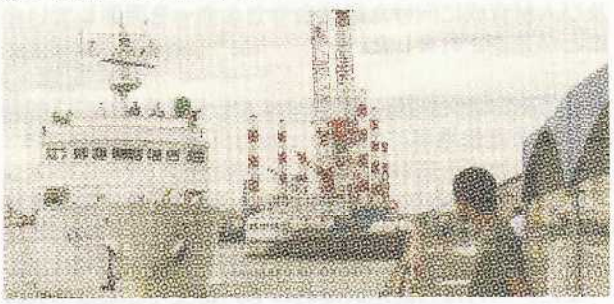
ヨットの部においては、総合3位、シーホッパーSR級、FJ級共に3位という結果でしたが、3位入賞は10年ぶりという事で、来年度に期待をつなぎました。

鳥羽丸巡航　2009／8／1(土)～3(月)

8月2日(日)、鳥羽丸が四日市港まつりに参加しました。(石田商船学科長、嶋岡機関コース主任、窪田先生、境先生、鎌田先生、学生32名、鳥羽丸乗組員)

小雨が降ったり止んだりの天気でしたが、船内一般公開には455名と多数の方が見学に訪れました。また、体験航海は、事前に応募した67名が四日市港内の航海を体験しました。小さな子供連れの親子が多く、巨大なタンカーや自動車船、長島スパーランドの遊園地など初めて見る海上からの景色に歓声を上げていました。

カッターレース大会は運営のお手伝い、レース共に大活躍で、レースは1位となり昨年の雪辱を果たしました。運営の手伝いは、審判、進行係、召集係、出場艇乗降支援など、きびきびとした動作に大会関係者から多数、感謝の言葉を頂きました。



同窓会四日市支部、四日市海技専門協議会、四日市港管理組合、H6N高橋直樹氏、H16N谷水孝之氏からは、種々の飲み物等を贈呈していただくと共に、鳥羽丸の出入港の出迎え、見送りに対して、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

全国高専体育大会の結果　2009/8/23(日)

宮崎県の都城高専を主管校として開催された全国高専体育大会において本校から出場した卓球(団体)は、予選リーグにおいて高知高専、一関高専に敗退、決勝に進めませんでした。100m背泳ぎに出場したSN3の田中将太郎君は、決勝まで進み昨年と同じ5位入賞を果たしました。

◎ 各種コンテスト（暦順に掲載）

アイデア対決・全国高専ロボコン2008東海北陸地区大会 2008／10／12(日)

アイデア対決・全国高専ロボコン2008東海北陸地区大会が伊勢市にある三重県営総合競技場体育館で盛大に行われました。

この地区大会の運営は本校が担当し、東海北陸地区の高等専門学校から各校２チームずつ計２０チームの参加で、熱戦が繰り広げられました。

今年のロボコンのテーマは「ＲＯＢＯ－ＥＶＯＬＵＴＩＯＮ　生命大進化」で、初めて「歩行」に挑戦しました。本校のＡチームは、「ミキモとミタマ」、Ｂチームは「春風マーチ」で、「多足歩行から二足歩行へ」といった困難な課題に果敢にチャレンジしましたが、残念ながら初戦敗退という結果になりました。優勝は、富山商船高専Ａチームの「μtant」でした。次年度は石川高専が当番校で開催されることになっています。

全国高専プログラミングコンテスト 2008／10／11(土)、12(日)

10月11日(土)12日(日)に福島県いわき市のいわき明星大学で開催された全国高専プログラミングコンテストに鳥羽商船の制御情報工学科の4チームが予選を勝ち抜いて出場しました。

本年度の課題部門のテーマは、「ゆとりを生み出すコンピュータ」で、制御情報工学科３年生を中心としたチームで「Hand! Move!」という作品を開発しました。「Hand! Move!」は手の形をカメラで読み取ってプレゼンテーションツールを自在に操るというシステムです。高い技術力が評価され多くの審査員の注目を集めていました。

自由部門には、制御情報工学科５年生を中心とした２チームが出場しました。「Ee-Class」チームはWiiリモコンを利用した双方向授業支援システムで、Wiiリモコンを持って挙手すると、手を挙げた生徒の写真がスクリーンに出るなど、さまざまな仕掛けが評価され、たくさんの取材を受けていました。

また、「ＳｐｅａＣｋａｅｒ（スピーカー）」チームは、近距離の車同士の情報交換システムを提案し、そのコンセプトは審査員から高い評価を受けていました。

それぞれのチームが、二日間に渡るプレゼンテーション審査、デモンストレーション審査、マニュアル審査をうまくこなし敢闘賞を受賞することが出来ました。

なお競技部門は、会場のシステム不具合のため競技が成立せず、後日やり直しになりました。

◎ 注目クラブ活動

ヨット部

平成21年度の各種レースにおいて、優勝、入賞と成果をあげています。各レースの結果を掲載します。

三重県国体予選 2009／5／31(日)

少年国際FJ級	1位、2位 独占
少年女子シーホッパーSR級	1位
少年男子シーホッパーSR級	2位、3位
成年男子シングルハンダー級	2位

これらの学生は、10月に新潟で行われる国体の強化指定選手として練習を重ねてゆく予定です。昨年度の三重県国体選手には少年男子の部２名、ヨット部OBが2名選ばれており、今後の活躍が期待されます。

また、東海地区高校総体ヨット競技が2009／6／20(土)、21(日)に蒲郡の海陽ヨットハーバーで行われ、男子FJ級に3艇出場、強豪チームが集まる中、総合で5位に入賞しました。

6月28日(日)、津で開催されたブルーカップ津ヨットレースディンギーの部で優勝

卓球部

平成21年5月30日、津市体育館で行われた三重県高等学校総合体育大会において、56校中ベスト16に入りました。3年生2名、2年生2名が接戦の末、2回戦まで勝ち抜きました。

東海地区国立高等専門学校体育大会おける団体の部優勝は、行事欄に掲載しましたが、8月23日(日)、24日(月)に九州、別府アリーナで開催される全国大会でも最後まで諦めずがんばって下さい。

◎ 地域活動・地域貢献（暦順に掲載）

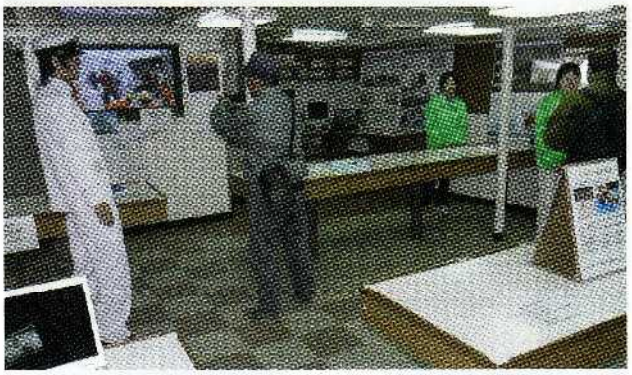
知事トークinキャンパス 2008／10／15(水)

野呂昭彦知事が学生と意見交換を行う「知事トークinキャンパス」がマルチメディア教室で行われました。野呂知事から「三重県の現状」や「三重県の取組」等についての講演があり、その後学生との意見交換会の場では学生からの「鳥羽湾改修事業」や「県内企業の女性採用の支援」等についての質問に対して丁寧なお答えがありました。

参加した８０名の学生は三重県の将来の担い手として頑張っていってくれることでしょう。

名古屋港PR航海 2008／11／7－9

航海訓練所の練習帆船「日本丸」の名古屋港寄港（名古屋港開港祭）にあわせ、鳥羽丸も本校のPRを兼ねて名古屋港ガーデン埠頭にて一般公開、体験航海を行いました。当日は、日本丸のセイル・ドリルもあり、体験航海は59人の応募者、一般公開は2日間で1070人の訪船者がありました。一般公開では船内の案内、教室における各学科紹介、パンフレットの配布、学校紹介ビデオの放映等を実施し本校のPRを行いました。2006年（平成18年）から航海訓練所の練習船寄港にあわせて、今年で4年目になります。海事思想の普及、本校入学志望者の増加に繋がって行く事を願っています。



なお、寄港に際し下記の方々からたくさんの飲み物やケーキ等の差し入れをしていただきました。この欄を借りて、厚くお礼を申し上げます。

旭メンテック(株)、東海協和海陸(株)、名古屋港管理組合、同窓会名古屋支部、中尾洋介(H12N)、原田和(H15N)、岩田将也(H17N)、鬼頭俊介(H15N)・和江(ＳＮ4)御父兄

鳥羽商船と鈴鹿高専が伊勢市と産学官連携協定を締結 2009／1／22

鳥羽商船、鈴鹿高専は伊勢市と産学官連携協定を締結しました。この協定は３者が連携して伊勢市内の中小企業が抱えている様々な課題解決を図るとともに、人材育成や企業強化を推進し、地域産業の活性化に貢献することを目的としたものです。

伊勢市産業支援センターで行われた調印式では、森下隆生伊勢市長、山田猛敏鳥羽商船校長、高橋誠記鈴鹿高専校長が協定書に調印し、市の企業支援員及び両校の産学連携コーディネーターによる企業訪問、両校の技術シーズの紹介を手始めに中小企業との研究開発、技術相談及び人材育成に向けた講演会やセミナーを開催していくことが発表されました。

鳥羽市総合防災訓練に参加 2009／1／31(土)

鳥羽市石鏡地区において、鳥羽市をはじめとする18機関が参加する鳥羽市総合防災訓練が行われました。

鳥羽商船は、平成18年9月1日に鳥羽市との間に締結された「災害時協力協定」に基づき、海路から鳥羽丸が参加、防災本部においても消火訓練、煙道脱出訓練等に参加しました。

また、当日は石鏡地区において、鳥羽丸と陸上の教員の間で通信実習も行いました。

鳥羽丸は30m近い強風の吹く中、支援物資運搬の目的で参加しました。2007年2月の千賀地区における防災訓練に続き2回目の参加でしたが、今後もこのような活動を通して、地域における鳥羽丸の意義を高めていけたらと思っています。

小学校での出前授業 2009／7／2(木)・9(木)

７月２日(木)、地元の志摩市教育委員会との連携により船越小学校で「レゴを用いたロボット製作入門」の出前授業を実施しました。地域の子どもたちにレゴロボットを通じて科学技術やものづくりのおもしろさを知って

いただくことを目的として、同校理科室にて6年生(19名)が、ロボットの構造や各種センサーの働き及びプログラミングを学びました。子どもたちは、自分の製作したロボットがライン上をプログラムのとおり走行する動きに見入っていました。

また、7月9日(木)鳥羽小学校において6年生の児童30名を2班に分け、体験学習として「風に向かって走れ －ウインドカー製作－」と「オリジナルTシャツ作成講座」を行いました。児童たちは「風に向かってこんなにプロペラが回って走るとは思わなかった」「Tシャツへのアイロンがけは初めて。思ったようにはデザインできなかったけどすごく楽しかった」等初めての体験に瞳を輝かせていました。

四日市港開港110周年記念表彰　2009／8／4(火)

8月4日(火)、明治32年に貿易のできる開港場に指定されてから110周年を迎え、野呂三重県知事（管理者)、田中四日市市長（副管理者)、同港管理組合により記念式典が開かれました。本校は、四日市港の発展に貢献した30の企業や団体、個人のうち「みなとまちづくり」部門での貢献が認められ、地元選出国会議員や県議会議長、市議会議長、関係者100人の出席する中で野呂知事より表彰を受けました。

10年以上に亘って、学校行事として鳥羽丸とカッターボートで港まつりに参加し、一般公開、体験航海、カッターレース大会出場・補助、学校PRを行ってきました。四日市港周辺企業で働くOBも多数おり、同窓会四日市支部の活動にも助けられ、長期間継続してきたことが実を結んだと思っています。卒業生のほぼ全員が外航船に就職していた時代とは異なり、港周辺企業を志向する学生もいる現在、今後も続ける必要性と、更なる効果が発生して来ることを期待しています。

◎ 講演会等

伊勢三河湾水先人による特別講義　2008／10－2009／2

伊勢三河湾水先人4名(本校卒2名)の方を講師として平成20年10月6日より平成21年2月23日まで16回に亘って、海事技術者養成講座と称して特別講義が商船学科の3・4年生を対象に本校で行われました。現役水先人による現在の水先人制度の状況や昔の学校・寮生活の話に学生も目を輝かせて聞きいっていました。

講師をしていただいた八木嘉幸様、山田隆弘様、井上道彦様（S40卒)、小林司様（S43卒)、本当に有難うございました。

メンタルヘルス講座　2009／3／13(金)

マルチメディア教室において、津市の「タカオカクリニック」院長：落合正浩先生によるメンタルヘルス講座が行われました。落合先生は元三重大の先生で、様々な会社や団体から依頼を受けメンタルヘルスの講演・指導を行ってきたそうです。

複雑化する現代社会における精神的なストレスの解消法を、脳の働きなどを交えて話していただきました。

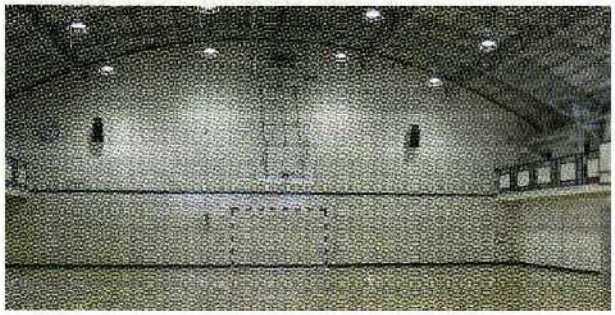
◎ 施設・設備

テニスコート改修工事　2009／3／6

テニスコート周囲の金網等の改修工事が終わり、平成21年3月5日(木)に、山田校長、佐藤副校長、八戸テニス部顧問らで、快適な課外活動を行えるよう、更には怪我のないよう安全を祈願してコートのお清めを行いました。

第一体育館改修工事　2009／3／26

本校第一体育館の壁面・床板等の改修工事が無事終了したのを機に、山田校長、佐藤副校長および伊藤学生主事らにより安全で快適な課外活動が行えるよう、更には怪我のないよう祈願して「お清め」を行いました。



◎ 教員人事

勧奨退職	商船学科教授	3月31日	天野　宏
転出	商船学科Eコース準教授		小川　伸夫
	(長岡高専へ)		4月1日付け
	総務課施設係	(H7I)	竹内　晃輔
	(三重大へ)		4月1日付け
新任	技術センター技術職員	(H16E)	吉岡　裕也
			7月1日付け

◎ 公開講座　平成21年度

サイテクランドin鳥羽商船（小中学生向け公開講座）

夏休みを中心に下記の講座が行われています。詳しくは、本校ホームページを見て下さい。

1　手作り太陽電池　7月23日(木)、24日(金)　中学生
2　Wiiリモコンでゲームを作ろう
　第1回　7月27日(月) 28日(火)　中学生
　第2回　8月19日(水) 20日(木)　中学生
3　おもしろ理科実験 7月29日(水)　小中学生
4　伊勢湾から学ぶ海の環境と汚染の現状
　－海を救うのは君だ－ 7月30日(木)　中学生
5　LEGOブロックでロボットを動かそう 8月5日(水) 小中学生
6　リニアモータカーを作ろう 8月25日(火)　小中学生
7　小学生のためのバレーボール教室
　10月19日(月)・26日(月)・11月2日(月)

◎ 同窓生の本校教職員は、下記の9名です。

世宮　利郎	(S43E)	電子機械工学科講師
鈴木　秀司	(S48N)	鳥羽丸船長
竹内　和彦	(S47E)	鳥羽丸機関長
濵地　義法	(H4N)	鳥羽丸一等航海士
		(新日本海フェリーより出向)
大野　伸良	(S56E)	鳥羽丸一等機関士
出江　幸重	(H3M)	制御情報工学科準教授
江崎　修央	(H4M)	制御情報工学科準教授
濱口　沙織	(H17I)	技術センター技術職員
吉岡　裕也	(H16E)	技術センター技術職員

支部だより

北海道支部

支部長　奥田宣夫

今年の北海道は、本州並みの梅雨のような気候ですっきりしませんが、８月に入りようやく夏らしい気候となりました。

さて、一昨年からの同窓会新体制において、「北海道・東北在住者は北海道・東北支部所属」となり、支部長が桜井明氏（Ｓ２４Ｅ）、理事が前田公氏　（Ｓ３２Ｎ）を中心とした支部組織でありましたが、北海道については独立してはどうかという意見が多くあったことから、去る６月１４日に開催された同窓会理事会において「同窓会運営細則」が改定され、北海道は単独支部組織として活動していくこととなりました。支部長としてＳ４８Ｅ奥田宣夫（札幌在住）が、副支部長としてＳ４９Ｎ吉田均（函館在住）が担当させていただくこととなりました。何分不行き届きの面があるかと思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。また、前支部長である桜井明氏との引き継ぎも無事終了しましたことをあわせてご報告させていただきます。

ところで、北海道支部としての第１回目の総会は、９月２０日（日）に函館にて開催する予定です（８月５日現在）。その内容につきましては、次回発行の同窓会報に掲載できると思いますが、多数のご参加を期待しているところです。

なお、開催地を函館としましたのは、以前は函館支部錦浦会として活動していた関係上、記念すべき北海道支部総会の第１回目開催地としてふさわしいと考えたためです。北海道全体からしますと函館は遠い場所ですが、次回の総会は札幌市内での開催も考えております。道内各地からのご参加をお願いいたします。

東日本支部

支部長　大橋秀章

皆様、既にご存知のことと思いますが、去る6月13日に名古屋で開催された総会において、我々の支部エリアが変更され呼称も『東日本支部』と変わりました。
新たに東北地方と新潟地区の皆様が加わり、エリアとしては静岡県東部、長野県、新潟県より東又は北の地域が東日本支部となりました。

私が就任して2年となりますが、就任時は「京浜支部」、昨年6月から「関東支部」、そして今年の6月から「東日本支部」と呼称が３回目の変更となりましたが、新たな組織として皆様とともにより良い支部を目指す所存ですので、今後とも宜しくお願い致します。

本年度の東日本支部として執り行った事項や今後の催し事項を下記します。

（１）船員教育創始者　近藤真琴・岩崎弥太郎展（1月10日～25日）

東京都品川区の「船の科学館」で海王丸の遠洋航海出港式に合わせ、同館敷地内の係留船羊蹄丸のロビーでパネル展を開催しました。

後輩たちの≪ごきげんよう≫の登檣礼の後、学校長・事務部長、国立高専機構の理事はじめ航海訓練所理事、日本船主協会、日本機関士協会、攻玉社理事・同窓会長等蒼々たる来賓を迎え、テープカットの後辻会長の挨拶で16日間の自作パネル展が開会されました。

パネル展の名前にもなった近藤真琴翁の資料等の収集には攻玉社学園の大変なご協力を頂き、支部役員の皆さんが約3ヶ月間手弁当で準備を進め、直前に何とか間に合ったという状況でしたが、支部の役員だけで運営したのではなく、一般の同窓生の皆様の協力を得ることが出来、約700名の来場者に対して説明役同窓生の皆さんによりパネルの説明を行ない、無事に16日間の展示会を終了することが出来ました。一般の同窓生の皆様に参加して頂けたことが特筆すべき点であると思います。

ご協力頂きました皆様、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

（２）合同進学ガイダンス（7月25日）

昨年に続き、土曜日にではありましたが東京で商船5校の入学生募集の催しである「合同進学ガイダンス」が日本船主協会主催の元に行なわれました。東日本支部として当日協力することは勿論、支部の皆さんが一丸となって何かに当る機会とすることを目的とし、支部同窓生の皆さん全員に手伝ってもらうことを方針とし、学校のパンフレットを全同窓生に送り、近所の中学生や中学校に母校の入学案内状を持参したり子供に託したり、方法を問わずガイダンスへの参加者を集めることを目的として、各自で行動をとってもらうこととしました。中には市の教育委員会に出向き、その市内全中学校に配布する約束を取り付けて頂いた方もいました。

当日は現役の一航士に、子供たちへのアピールの為暑い時期にも拘わらず冬の制服着用にて母校ブースに張り付いてもらったところ、来場者の注目を浴びていました。地の利もありますが、鳥羽商船ブースの周りには人垣が出来るほどの人気であったことをお知らせします。

昨年はガイダンスにて5名の入学生があったとのことですが、今年はこれを上回る入学生があることを祈念しています。

（３）東日本支部総会

今年は10月23日（金）夕刻から東京都中央区晴海の「マリナーズコート東京」にて支部総会を開催します。

昨年は本部総会を東京にて開催した関係上、支部総会は開催しませんでしたが、今年は皆様の参加を心よりお待ちしています。

詳細は追って案内を送付しますので是非参加下さい。

(4) ホームページ

同窓会のホームページが立ち上げられています。その中に支部便りのコーナーがありますが、催しがあった後や皆様への案内がある場合等はこの中でお知らせするようにしています。

できるだけ更新するように心がけていますので、皆様一度覗いてみて下さい。

中部支部

支部長　宗接 万太郎

我心の商船健児

昨秋のリーマンショックに端を発し、100年に一度の大不況（?）はこの駄文が発刊される頃はいかほどの経済復興となっているのでしょうか？とりわけ名古屋の港はTOYOTAさんの影響でまだまだひっそりとした感があるようです。世界的にも海運界とてご多分に漏れず、海上貨物輸送の主流となって久しいコンテナ船は、この6月現在で530隻130万TEU分が、世界各地の港湾・泊地で待機状態にあるといわれ、新造キャンセルが出来なかったULCUなどはとんでもない置き土産となっているようです。

申し送れましたが、この度（6月総会）中部支部のアタマを仰せつかりました48年N科卒の宗接と申します。名鳥会を主として中部支部の同窓会活動に尽力された、前支部長の菅沼君とは同期であり、新人類とか、バブルとかの世代別呼び名でいえば、団塊世代の少しあとのシラケ世代ということになるようです。

同窓会活動に於いて私に出来ることはタカが知れているとはいうものの、当面の重点目標としましては、衰退傾向にある同窓会を少なからずとも、今一度盛り返すことと考えております。兎にも角にもまず、「何回に一度でよいから"集まり"に顔出して下さいね」を粘り強く呼びかけることでしょうか？ここで、この問いかけに必ずセットで返ってくる言葉は「何の恩恵があるのですか・・・?」はっきり云って目立った"恩恵"なんてないでしょう。殊に同じ釜のメシを喰ったもの同士旧交をあたためるだけのことが、"損"と捉える若い卒業生は少なくはないかも知れません。しかしながら、例えば、特に港湾や海運に身を置いている同窓にとっては結構な立場の人も多いと思いますが"ひとりの力で偉くなった訳ではない"とも考えてみてはいかがでしょうか？また、去る6/14には名古屋に於いて同窓会総会が盛大に開催されたことは記憶に新しく、その際の来賓には"時の人"河村たかし名古屋市長に参列していただきました。本校に無縁であっても引っ張り出す（言葉はよくないですが）ことが出来ること、すなわち何かを"やる"力も同窓会の立派な意義だと私は考えます。いずれにせよ、まずはCLUB思想だろうが、退嬰的といわれようが埋屈ぬきに集って頂けることをお願いする次第です。

刹那に学生時代を過ごし、社会人となってもこれまでおおむね怠惰で不良サラリーマンであった私に過日何を思ったか、妻がボツリと云いました。

「まっとうな人生を送ってきたとは思えないけど、"商船"を卒業したことだけは、あなたの唯一誇りのだね」

本校に少しでも恩返しをさせていただく事に、心が動いた決定的なひと言になったようです。

同窓の皆様には「呑みにいこっ！！」「いっしょに行けへん？」と、まずは声をかけるACTIONをとっていただき、同窓会の盛り上げに是非ともご協力の程、宜しくお願いいたします。

四日市支部

支部長　室　博也

本年6月から、中澤昌信様（S37N）より支部長を引き継ぎました室と申します。現在、四日市港管理組合という三重県と四日市市がジョイントで設立した四日市港の管理運営団体（神戸港⇒神戸市みなと総局、横浜港⇒横浜市港湾局に該当）に勤務しています。中澤様をはじめ、当支部の歴代の支部長には行動力、同窓会への想いや活動への取組レベル等どれをとりましても及ばないところですが、何時・何処におきましても鳥羽商船のゼッケンを背負って生きる人間の一人と自覚し、精一杯がんばりますので、何卒ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以下、当支部の活動をご報告申し上げます。

1　支部総会の開催

6月26日〔金〕夕刻より、四日市市内の中華料理店にて、辻同窓会長様及び母校山田校長様をご来賓としてお招きし、支部役員を含む会員20名の出席のもと、第47回支部総会を開催しました。辻会長様からは本年6月14日に名古屋市で開催されました総会を中心とした同窓会の近況報告を、山田校長様からは学生の進路に関することをはじめとした母校の近況等についてのご報告を、それぞれ、賜りました。支部としましては、今後2年間を任期とする役員の改選が行われ、当方を含む新役員が原案通り承認されました。なお、出席者を当報告書の末尾に掲載しました。

2　全国高校野球選手権大会三重大会での母校応援

毎年、7月中旬に入りますと、甲子園を目指す熱戦が三重県内の4つの球場で繰り広げられます。母校野球部はこれまで、伊勢、松阪、或いは津の球場で試合をすることが多く、自称「高校野球マニア」の一人として残念に思っていたのですが、今年は、念願かなって四日市市内の球場に登場することとなりましたので、応援に向かいました。支部からは役員の杉本君（S55N）、西井君（S61E）、相良君（H6N）をはじめ、地元のOB計6名がスタンドから応援しました。相手は四日市近郊の甲子園出場経験もある強豪で、残念ながら7対5の僅差で敗れはしたものの、（支部からの差入れが効いたのか？）エラーや四球が少ないすばらしい内容の試合を観戦させていただきました。チームは1,2年生が中心であり、来年が楽しみです。県内のOBの皆様！　次回は、ぜひ球場に向かいましょう。

3　母校カッター巡航と四日市港まつり（予定）

毎年8月の第1日曜日は「四日市港まつり」が開催されますが、これにあわせて本年も母校からカッター巡航として鳥羽丸の入港が予定されています。まつりでは、同船の一般公開や体験公開の他、学生の協力のもと、カッターレース大会が開催される予定ですが、この件につきましては、後日、ご報告申し上げます。

【平成21年度支部総会出席者（平成20年6月26日〔金〕・中国料理「新北京」にて）：敬称略】
来賓　辻裕（同窓会長 S32N）、山田猛敏（母校校長）
会員　末崎弘（S17N）、中野清文（S21N）、栗栖利之（S31N）、中澤昌信（S37N）、名倉勝（S38N）、坂田安吉（S42N）、大隈克義（S44N）、鈴村雅明（S48N）、杉本忠明（S55N）、室博也（S55N）、谷水一隆（S56N）、田中博繁（S56N）、山本聡（S59N）、待井健司（H2N）、相良球一（H6N）、城者幸恵〔旧姓山下〕（H6N）、山田岑生（S37E）、西井育央（S61E）、伊藤英樹（H4E）、田伏真也（H9E）以上計22名

伊勢志摩支部

支部長　古川昭一

同窓の皆さん如何お過ごしですか、長引く梅雨に色々と影響もあったと思います。当支部からは次の3項目を報告します。

1　伊勢志摩支部を特区に指定して活動を活発化する。構想がありますがその阻害要因として
① 当支部の特徴として工業系の若い卒業生が断然多いこと。(65%)
② 卒業生の核となる団体がないこと。
③ 支部理事は従来から全員商船系
何処の支部でも同様と思いますが、若い世代では、商船系・工業系を問わず仕事が忙しく、また若い家族のため家庭でも忙しい。為に、余分な事はしたくない＝同窓会活動はその一つ。
この阻害要因を取り除けば、活発化すると思われるが、手段・方法暗中模索、壁に突き当たっている状態です。助け舟大歓迎

2　今年の支部総会は、11月1日(日)に開かれる学校の海学祭に合せて行う予定です。昨年の総会は鳥羽シーサイドホテルを利用して開きましたが、参加者20名の惨澹たるものでした。今年はその反省からホテル利用等の費用を掛けずに、又会合の趣旨も「気楽に肩振りして」顔繋ぎや近況報告、来て貰った方にはサイン位してもらい、海学祭を楽しんでいただければと思っています。同窓会用のテントをひと張り予定しています。
支部在籍全員に上記総会開催通知をご案内します。

3　日本財団が進めている、「海・川ってこんなに面白い」助成金制度があります。
ボランテイアグループ「故郷の海を愛する会」を有志で立ち上げ、この地域(鳥羽市・志摩市・伊勢市)の子供たちに海に関わりの有る施設の見学や体験又経験談を聞く、活動を以下の3項目に纏め、助成金申請を行い、審査の結果、認められ助成金を得て活動を開始しております。
① 練習船鳥羽丸乗船と大型造船所の見学、8月7日（募集５０名）
② 海の博物館での体験とお話、8月21日（募集６０名）
③ 海学祭に合せて学校施設の見学、船長の話、コンピュウタの話、開学の祖近藤真琴翁の話　11月1日（募集８０名）

実際に募集を行うとなると、その実務は多岐にわたり中々手に負えないのですが、今回は得がたい人材に恵まれてスムーズに運ぶことが出来ました。有難い事でした。

最後にお願いがあります。同窓会活動がスムーズに行えるように会費の納入にご協力下さい。同窓会は卒業生全員のものです。

大阪支部

支部長　岡崎和清

今夏は本格的な夏季の到来を感じる間もなく、朝夕の風に涼しさを感じる季節となりましたが、同窓の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。
さて、大阪支部の事務局体制や活動の近況について報告します。

1．大阪支部の事務局体制、活動について
(1) 役員・事務局体制
平成２１年２月６日、大阪支部幹事会を開催し、藤本支部長が本部副会長に就任されること等から大阪支部の役員体制を見直しました。近年、東京一極集中の影響を受け、働き盛りの世代を中心に関東圏への転勤者が多く、大阪周辺在住の同窓が減少しており、そのため総会等への出席者も低迷していますので、役員の若返りによる支部活動の活性化を図ることを基本に候補者の人選を行いました。
また、大阪支部では、支部役員として理事以外に幹事を選出しています。その目的は、事務局の活性化と各年代層から幹事を選出することによるネットワークの強化、ニーズの吸い上げなどです。
今年度の役員変更案の目玉は、なんと言っても女性の起用です。今まで幹事として活動してきてもらった福田美和さん（Ｈ７Ｎ）に理事に就任してもらい、平成１８年航海科卒の島影尋瑞さんに幹事に就任していただく案を作成しました。
大阪支部総会での承認手続きを経て必要が正式なものとなりますが、今後は、女性会員の参加しやすい環境を整えていきたいと考えています。

支部役員名簿

支部長	岡崎　和清（Ｓ４８Ｅ）		
副支部長	岡室　孝美（Ｓ５２Ｎ）		
理　事	村田　佳久（Ｓ５５Ｎ）		
〃	国安　政幸（Ｓ５８Ｎ）		
〃	福田　美和（Ｈ７Ｎ）		
幹　事	清家　政之（Ｓ６０Ｎ）		
〃	平賀　正泰（Ｈ１Ｎ）		
〃	三村　純一（Ｈ５Ｅ）		
〃	西村　孝一（Ｈ８Ｎ）	事務局担当	
〃	西村　和展（Ｈ１２Ｎ）	事務局担当	
〃	島影　尋瑞（Ｈ１８Ｎ）		

(2) 支部活動トピック
①支部ホームページをブログに変更
大阪支部のホームページは、平成１５年１０月、当時、大阪支部の幹事であった相田義輝さん（Ｓ６０Ｎ）のご尽力により大阪支部のホームページを開設し、平

成１９年９月に事務局担当幹事の西村孝一さん（II８N）が持ち前のＩＴ知識を活かして、ホームページをブログに変更し今日に至っています。

ブログの更新・管理は、若い世代の感性を活かすことが不可欠ですので、今回、最も若い幹事の島影尋瑞さん（Ｈ１８年N）にお願いし、ブログの更新・管理を担当していただくことになりました。まだ、同窓の情報交換の場としては、十分に機能しているとは言えませんが、インターネットは一般的な通信・情報交換の手段として定着していますので、皆様からの近況やニュース、ご意見等をお寄せいただくことで活性化することとを期待していますので、是非、投稿をよろしくお願いいたします。

(URL：http://blogs.yahoo.co.jp/tobashousenkinpokai/folder/456512.html)

②大阪支部と神戸支部の統合

支部統合が提起されて以来、課題となっています大阪支部と神戸支部を合併し、関西支部とすることについて、神戸支部と話を進めていくことで一致しており、９月中にも両支部の役員の会合を行うこととしております。また、大阪支部の支部総会は、支部統合への道のりも考え、今年の開催時期を検討中です。

③その他

大阪では、８月２１日～１０月１２日の間、「水都大阪２００９」のイベントを開催しております。高速道路も安くなっているので、是非、同窓誘い合わせて、大阪・関西観光にお越し下さい。

神戸支部

奥　正夫

同窓会の皆様に神戸支部よりご挨拶申し上げます。

さて、今年の梅雨明けの遅いこと、どうなったと言いたいところ。　特に近畿は、ひどく、どうやらこの原稿を書き出した８月３日に平年差で１５日遅く明けた模様です。

さて、神戸支部ですが、小生、今年初に大腸ポリープの切除を初め種々体調が優れず、同窓会、特に神戸支部の皆様には、いつも春に催す支部総会も開催出来ずに、ご迷惑を掛けて情けなき限り。

従い、次期支部役員も秋１０月の支部総会開催を待てず新規にお願いし動いて貰ってる有様です。私的な泣き言は此処までとし。

この際、神戸港の現況などにふれてみたいと思い、神戸市の港湾行政の大元である「神戸みなと総局」及び「神戸埠頭公社」のホームページに久しぶりに触れてみましたが、その変わり様は激しく、世界のハブ・ポートとして君臨していた２０数年前とはその使い方と貨物扱い量等に於いて少々寂しい思いです。特にポートアイランドの西側埠頭に林立していたガントリークレーンが６～７年前に姿を消してしまった神戸港の表情に気がついた際は大変驚き、嫌な思いをしました。　しかし、三宮の高台から見えていたこれらクレーンはポートアイランドや六甲アイランドの西側埠頭で依然として活躍しているし、又、外航観光船である"飛鳥"や"にっぽん丸"更には、国内有数の大型ベイクルーズ船"ルミナス"等の姿に新たな期待を持ちたい神戸在住同窓会員の思いであり、夢でもあります。

ところで、本年６月に名古屋で開催された総会において、神戸支部については、　支部長　籠山　弘之（Ｓ39N）、理事　藤井　俊之（S39E）・北川　哲男（S43N）の３氏が理事会・総会で承認されました。

今後、支部総会で、役員の交代等の承認が計られ、新体制に引き継いで行く予定です。

西日本支部

支部長　福岡健彦

九州北部、中国地方に大きな災害をもたらした今年の梅雨も八月に入ってようやく明け、その後連日猛暑が続いております。同窓会会員の皆様方のところは如何だったでしょうか、お伺いいたします。

昨年西日本支部が発足し、第一回支部総会を昨年十月に一泊二日で下関の国民宿舎で開催しました。参加者は家族の方々も含めて十九名で、総会後の懇親会では夜遅くまで意見交換、歓談し楽しく過ごしました。

今年度の総会及び懇親会は、昨年同様十月十一日、十二日の一泊二日で下関市内の「海峡ビューしものせき」で開催の予定です。家族同伴、他支部会員の参加大歓迎です。

一人でも多くの参加を期待しております。

八月八日、福岡市の"国際会議場"で開催された「国立商船高等専門学校（5校）合同進学ガイダンス」に西日本支部から　私、山下　文徳氏、神子　功氏の3名が出席致しました。

定刻が近づくにつれ、準備してあった席が参加者で埋まりましたが、中学生の数は十人程度ではないかと思われました。

冒頭主催者である船主協会の代表者から船の魅力や日本人船員の必要性についての話があり、次いで各学校が順番に、それぞれの特徴、セールスポイントのPRをし、また現役の航海士、機関士の方から仕事の内容や船内生活の様子をビデオを使って説明がありました。

中学生や保護者の方々にとって、大変興味深い内容であったと思いましたが、瀬戸内３校を飛び越えて鳥羽を希望する中学生がでるかどうか、開催地が九州だっただけに鳥羽にとっては厳しいなあと思いました。

クラス会

S32年本科卒業航機合同クラス会

にわか世話役：大 澤 則 義

今年の鳥羽商船の同窓会総会は名古屋で開催されました。

クラス会を6月14日の総会後に開催したらとの提案あり、辻さんから5月に入って皆さんに案内を送りました。会場の選定について、急遽 名古屋の近くに住んでいる大澤に担当が当たりました。

会場は「レイクサイド・入鹿」と決定。ここは博物館・明治村（犬山市）の近くで入鹿池の畔にある郊外の静かな所です。

「名古屋から約30分で犬山駅着、送迎バス15分で到着。」

今回の同窓会は名古屋市、新幹線で東西の交通の良いところ、クラス会の参加者は16名でしたが沢山集まったというのか、少なかったというのか。

夕食後の二次会は部屋に集まり近況やら昔話などで遅くまで楽しい時間を過ごしました。

翌日はライン下りを楽しみました。

「木曽川の川下り：美濃加茂市（大田橋）から(犬山市)犬山橋まで約1時間」

幸い天気が良く太陽の日差しは暑く感じられたが川面の風は爽快でした。

来年もまた関西で集まろうと衆議一決しました。

参加者は

大島秀也、奥　正夫、河原幸男、郷原邦昌、正元弘三、田口賢美、坪井清吉、辻　裕、戸川義郎、萩原勝芳、大橋厚生、岡　久志、中尾益三、長谷川三千男、三角晋平、大澤則義

S40年本科卒業航機合同クラス会

永久幹事　川 口 心 也

2008年10月4日に恒例のクラス会を鳥羽国際ホテルにて行いました。

前回は台風をものともせず予定していた全員が時間通り集合し、帰巣本能の強さに驚きました。今回は天候にも恵まれ予定していた31名全員、早々の到着・参加となりました。

卒業以来、初めて参加した人、バンクーバーから遠路はるばる参加した人などがいて、賑やかなクラス会となりました。ただ、前回元気に参加していた林光明が2007年5月に病気で亡くなっており参加できませんでした。

宴会は林光明他亡くなっている人達への黙とうで始まり、その後、各人の現況報告が延々と続きました。宴会会場での宴会は8時過ぎには終了し、その後、和室での2次会となり、又、夜遅くまで大いに盛り上がりました。

その後、鳥羽の町に出かけた人もいたようです。

翌日はゴルフ組が9名、浜島カントリーでコンペをしました。結果は山本(一三)の優勝でした。

他の人は10名程度が学校、二見を経由して帰途につきました。

何人かは鳥羽の町を散策して帰ったようです。

4年毎のオリンピックの開催年にあわせクラス会を行っていましたが、60歳を過ぎ、徐々にリタイアした年金生活者も増えてきており、今後は2年毎に開催することとなりました。

全員が元気に再会できることを楽しみにしています。

関口、小川(雅)、古屋、御堂島、和田、坂口、大浦、山下、山口、中西、前田、渡辺、樋口、片岡、坂崎
山本(一)、平井、川口、三村、中久木、鴨志田、木村、吉倉
南方、丹羽、若林、伊深、井上、石川(菊池)、木下、上総

国立八期生(78期)クラス会

(S36年本科卒業) 文責　松 浦　肇

S36年本科卒のクラスは何故だか国立八期と自称するのが慣わしとなっている。定期的なクラス会開催は、平成14年還暦を機に落合先生、小柳先生をお迎えして鳥羽の地(鳥羽国際ホテル)に集合したのを皮切りに、4年後の平成18年には横浜(ナビオス横浜)で開催、間隔が4年では長すぎるとの意見が大勢を占め、2年後となった今回は、平成20年11月16日に神戸(神戸メリケンパークオリエンタルホテル)に集合した。参加者は30名(夫人9人含む)で久振りの再会にパーティは大いに盛り上がり、折から本科当時の担任であった落合先生が教育功労として「瑞宝小綬章」を授章されたことが報告され、一同喜びに沸いた。アルコールをまじえての談笑は2次会へと深夜まで続き、翌朝は、なっかしのメリケン波止場、中華街を散策するグループ、そしてクラス会第2幕としてレストランシップ「ルミナス神戸2」に乗船、明石海峡

ダイナミッククルーズを美味な昼食付きで堪能、ご夫人方にもなかなか好評であった。

我々のクラス会は、中京地区、京浜地区、阪神地区が持ち回りで世話人を担当し、2年ごとに開催することとし、次回は、早や来年(平成22年)中京地区が担当し名古屋近郊で開く予定である。また、還暦記念クラス会以後は、将来の足腰の弱りとボケを見越してご夫人方の同伴も推奨しており、お陰で奥様同上のお付き合いが増しており、次回クラス会についても当人達以上に発言力が強くなる傾向にある。いずれにしても我々クラスメートも67～68歳となり、夫婦共に健康には十分気を付けねばならぬ齢となった。次回も大勢が元気に集りたいものである。

参加者(敬称略):写真2列目右から坂倉修、臼井久雄、友田修、伊藤忠彰、松浦肇、村田勝久、飛田喜八郎、長谷川雅昭、斉藤正、森本昇治、簗田秀平、小出哲夫、大西彰夫、杉本嘉隆、佐藤昭雄、石川仂、大村順也、大久保澄夫、安藤裕、野崎利夫、他に岡安敏(写真撮影には間に合わなかった)と前列にご夫人方9名。

おめでとうございます

叙勲・瑞宝小綬章

落合弘明先生（S22N卒）鳥羽商船高等専門学校名誉教授・鳥羽商船同窓会名誉顧問（前同窓会長）は、長年の学術研究と教育者としての多大の功績に対し「瑞宝小綬章」を授与されました。

先生の叙勲は、同窓会の名誉と誇りで、２０年度の同窓会最大の慶事です。

海の日、海事関係功労者大臣表彰

海の日に海事関係功労者として以下の同窓生が大臣表彰されました。おめでとうございます。

S33N 宇野　憲治　さん　（大阪湾水先区水先人）
S36N 大西　彰夫　さん　（伊勢三河湾水先区水先人）

会員の新刊書紹介

昭和５４年機関学科卒業のペンネーム牧原静さんが文芸社から「アルファマの娘」という本を出版されましたので、紹介します。

内容などについては添付参照ください。

会員の投稿記事紹介

会員の松本暢生さんの投稿記事が掲載されましたので紹介します。

内容などについては添付参照ください。

死亡会員一覧

（謹んでお悔やみ申し上げます）　H20年4月1日～H21年8月31日の間で連絡のあった方

訃報：元「飛鳥」船長 野崎利夫氏の急逝

文責：松浦　肇

78期（国立八期生　S36N卒）の野崎利夫さん（享年67歳）が肺炎のため7月4日に逝去されましたので、故人のご冥福を祈ると共に「お別れ会」の模様も併せ、謹んで皆様にお知らせ致します。

通夜・密葬の儀は近親者のみにて営まれましたが、8月3日午後4時から横浜大さんばしホールにおいて盛大な【お別れの会（実行委員長　郵船クルーズ今崎社長、喪主野崎裕子様）】が行なわれ、辻会長以下多くの同窓生も参列したのでご報告申し上げます。

野崎元船長は、皆様ご存知のとおり、客船「飛鳥」の船長として初の世界一周クルーズ(96年)、南半球を巡る世界一周クルーズ(01年)、南極クルーズ(04年)等々を指揮され、日本外航クルーズ史のエポックとなる数々の航海に業績を残されました。ある意味では我が国を代表する船長の一人であったとも言え、彼の名声に惹かれて船長を目指した後輩もいたと思います。また鳥羽商船の名を高めたことは、母校や同窓生、特に我々同級生の誇りでもありました。船長引退後は日本郵船歴史博物館館長代理と飛鳥クラブ会長を兼任されていましたが、近い将来は母校での講演をお願いしようと思っていた矢先でもありました。

「お別れ会」には、クルーズを共にした一般客、海運界、同窓生、郵船の会長・社長を含む錚錚たるメンバーの姿が見られその数は1,000人近い人々と推測しました。花で「飛鳥」を模った祭壇の遺影に献花の後は、奥の大ホールに飾られた沢山の写真やスクリーンに映し出される記録写真・ビデオを見ながら用意された飲物で喉を潤しながら彼の思い出に浸りました。17時に大さんばしホール奥の大きなカーテンが開かれると、陽に照らされた港の風景と共に折から出港の「飛鳥Ⅱ」の白い巨大な船体が現れ、発せられた慰霊の長三声に合わせ黙祷をしました。素晴らしい演出で、批判もあろうかと思いますが、このような華のある「お別れ会」は、郵船でも最初で最後ではないかと思われます。陣頭指揮をとっておられた田中三郎さん（郵船クルーズ運航部長、同窓会副会長）のご活躍も垣間見ました。

「お別れ会」の後、クラスメート18人は坂倉幹事の肝いりで近くのホテルに場所を移し、故人の思い出を中心に、大いに飲み語り合う、臨時クラス会の開催となりました。

会員の移動等

2009年　10月　会報発行　会員数

会員の移動

新入会員　（平成21年9月卒業者を含む）

S科Nコース	S科Eコース	M　科	I　科	合計
20	16	34	38	108

会員数　（平成21年5月　基礎データによる）

S科Nコース	S科Eコース	M　科	I　科	合計
1437	1726	655	601	4419

物故会員　（平成20年4月から平成21年5月31日）

S科Nコース	S科Eコース	M　科	I　科	合計
16	12	0	0	28

特別会員　（平成21年5月　現在）

S科Nコース	S科Eコース	M　科	I　科	合計
5	4	0	0	9

準会員

本科　（平成21年8月1日　現在数）

S科Nコース	S科Eコース	S　科	M　科	I　科	合計
52	50	70	195	197	564

専攻科　（平成21年10月入学予定者を含む）

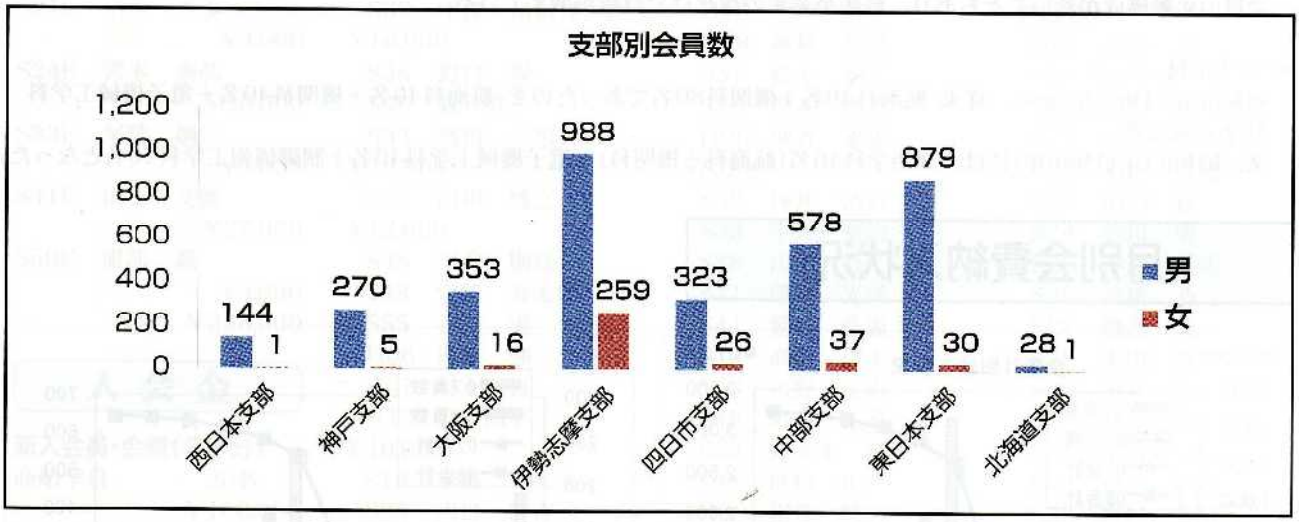
海事システム学	生産システム工学	合計
5	31	36

注記：S科（商船学科）について
　入学のときはコースを問わず、商船学科に入学します。航海にするか機関コースにするかは、２年生の終わるときに決めます。よって、上記準会員の本科生は２年生まではS科で、３年生からはS科Nコース、S科Eコースとして報告しています。

鳥羽商船同窓会　支部所属数

（平成21年3月　I・M科の卒業生は男女別に分けていない）

	西日本支部	神戸支部	大阪支部	伊勢志摩支部	四日市支部	中部支部	東日本支部	北海道支部	合計
男	144	270	353	988	323	578	879	28	3,563
女	1	5	16	259	26	37	30	1	375
会員数合計	145	275	369	1,247	349	615	909	29	3,938

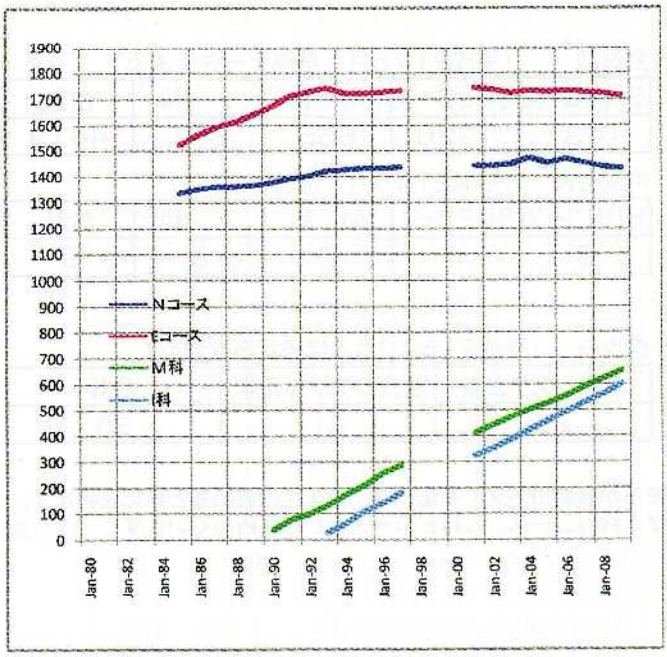


鳥羽商船卒業生（21年3月末）

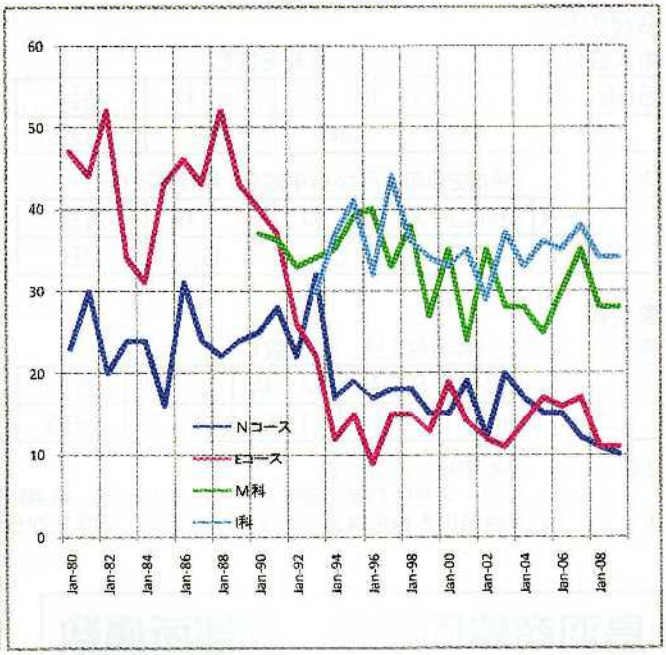
	卒業生	現会員	（現会員数内訳）		死亡（不明）	小計
			支部所属	支部不明		
N科	2,452	1,442	1,273	169	1,010	2,452
E科	2,637	1,730	1,533	197	907	2,637
M科	658	655	592	63	3	658
I科	601	601	540	61	0	601
			0			
合計	6,348	4,428	3,938	490	1,920	6,348

会員数の変化

会員数



新入会員数

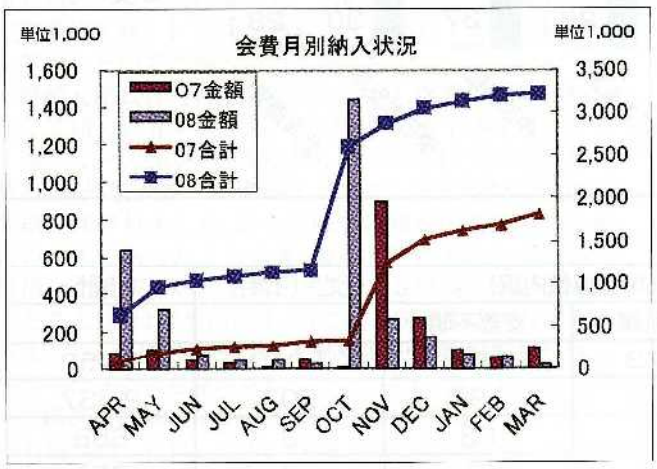


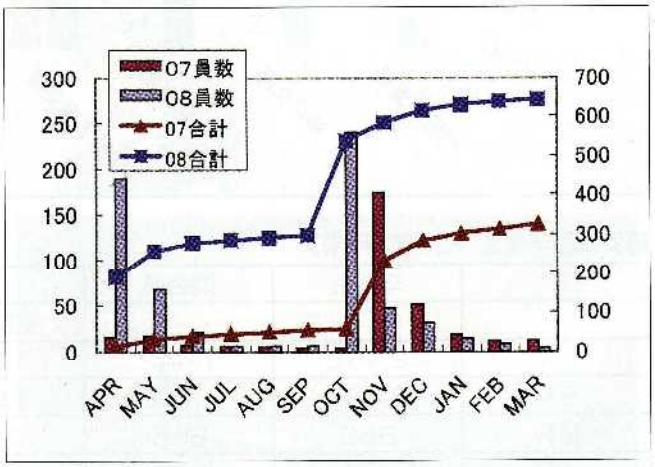
＊ Nコース、Eコースは2001－2004年ごろにピークとなり、その後、少しずつ減少している。
1994年から卒業生が急減したせいである。　それまではNコースで20－30名、Eコースで40－50名であったのが、夫々10－20名となった。
会員の年齢構成から、現状の10－20名の卒業生であれば、減少傾向が続くこととなる。
最近の2－3年はNコースとEコースを合計してもM科もしくはI科の員数より少ない。

＊ M科、I科は毎年夫々30－40名程度の卒業生となっている。
会員の年齢構成が若いこともあり、毎年卒業生の数だけ会員数が増えている。

＊ 学生定員
昭和60年(1985年)から、従来 航海科40名＋機関科80名であったのを 航海科40名＋機関科40名＋電子機械工学科40名となった。
又、昭和63年(1988年)には、商船学科40名(航海科＋機関科)＋電子機械工学科40名＋制御情報工学科40名となった。

月別会費納入状況





会費納入実績では4月と10月にピークがあります。
これは会報の送付と総会の案内の時期に重なります。
2008年度は2007年度に比べ大幅に増えました。

事務局だより

会費の納入について

同窓会会計の健全化のために少しでも多くの会員からの会費の納入が望まれるところです。

長く会費を納入していない方については、過去の滞納分が気になり、ついつい未納となっているのではないかと推察します。会報に同封の会費納入記録は、過去10年間の納入状況を記載しております。

会費の納入は、未納分全て纏めてでなく、1年分でも結構ですので、ご送金いただきますようお願いいたします。

同窓会費は年額2,000円です。

お詫び

新たな事務局体制となり2年経過しましたが、まだ、会員の皆さんに納得していただける体制には残念ながらなっていないようです。

2009年春、会費納入の件で多くの会員からクレームを受け取りました。

会費納入しているのに納入したことになっていない。

終身会員であるのに会費振込用紙が届けられた、などなど。

これは一時期データベースへのアップデートが欠落したこと、又、その確認が関係者内でしっかりなされていなかったことによります。

送金通知→学校・鈴木先生(情報確認・ノートに記録)→NCT(業務委託、データ入力)→事務局(入力確認、費目仕訳)の流れとなっていますが、
NCT自体、並びに事務局内での確認をしっかり行うことにより再発を防止します。

御迷惑をおかけいたしました。

お願い

総会の案内を全会員約4000名に送付して、返事が返ってくるのが約1100名。

不参加でもせめて返事くらい欲しいところですが、残念ながら同窓会への関心がその程度なのかもしれません。

何とかより多くの会員の同窓会への関心・参加を高めたいところです。

同窓会事務局から以下についてご理解とご協力をお願いします。

1．同窓会会計の健全化。

先の理事会・総会で報告の通り、誠に遺憾ながらここ2年間、同窓会会計は赤字であり、過去の貴重な積み立てを食いつぶしています。

支出の削減に努めておりますが、会計の健全化の為には収入の増加が必須です。

つきましては、会員の皆様方に以下につきご協力をよろしくお願いします。

- 会費納入にご協力ください。
- バナー広告のスポンサーになってください。
- 御寄付をお願いします。

2．同窓会ホームページ。

先の総会の辺りからホームページへのアクセス数が急に増えましたが、それでも一日の平均で20名程度です。もっと多くの方々が見に来てくれることを願っています。

正直、年配の会員にはインターネット・ホームページはなじまないものかもしれませんが、同窓会の情報がいつでも見ることのできる便利な道具です。

事務局として内容の充実に努めておりますが、多くの方のアクセスが励みになります。

是非、見に来てください。

ホームページの構成を少し変更しました。

求職欄は外しました。代わりにクラス会・趣味・特技・意見など、会員からの投稿の欄を設けました。多くの会員からの投稿をお待ちしています。

投稿はメールで受け取るのが事務局としての都合はいいですが、手紙でも結構です。

「同窓会のあゆみ」のなかに、会員数の記事を載せました。

記念会館の宿泊利用についての情報も掲載しています。

さらに、校祖近藤真琴の記事、記念会館の資料の紹介などを考えています。

古い会報は新しい5年分について8月末時点で掲示済み（個人情報にかかる個所は除いています）です。近いうちに全ての古い会報を掲示する予定です。

古い会報を見直すと、いろいろと懐かしいこと、面白いことがみつかります。

本部事務局の一同はほとんどの人が現役でそれぞれ自分の仕事をしています。

自分の仕事をやりくりしながら事務局活動をしています。

事務局活動は全くのボランティアです。

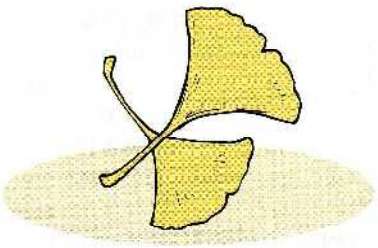
所属する会社ににらまれながら、事務局の仕事をこなしてくれている人もいます。

同窓会事務局としての仕事を外部委託していますが、何から何まですべてお任せできるものではありません。

日ごろの会計管理・決算、総会の準備、会報の発行、会員名簿の発行、会員情報の管理、ホームページの管理、同窓会事業への参加などなど、事務局の仕事はいろいろとあります。

会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

事務局スタッフとして新たに山口伸輔（S48N）さんが加わってくれましたが、事務局は新たなボランティアスタッフの参加を大いに期待しています。



鳥羽商船同窓会ホームページへのスポンサー（バナー広告）募集!!

鳥羽商船同窓会ではホームページをとおして同窓生の親睦、母校の繁栄、更には海事思想の普及を図ります。そのホームページ上へのスポンサー広告(バナー広告)を募集しています。

詳細はホームページをご覧下さい。

http://tobashousen-dousoukai.com/

平成22年度版同窓会会員名簿の発行と広告掲載募集

来年の平成２２年９月に新たな会員名簿の発行を計画しています。勤務先変更・住所変更などありましたら漏れなく事務局に連絡ください。同窓会では名簿に掲載する広告を募集しています。広告料は一口(名刺大)が１万円、１ページ（８口に相当）が８万円となっています。広告を掲載される会員には名簿を１冊（代金３千円の予定）進呈いたしますので、会社を経営されている会員の皆様には、特によろしくお願いいたします。

なお、平成１７年版の名簿に広告を掲載された会員には別途広告掲載依頼の文書を送らせていただきますので、今回もご協力の程、よろしくお願いいたします。

鳥羽商船運営細則改定にともない再掲載します。

鳥羽商船同窓会会則
平成20年6月8日　規則1号

第1章　総則

（名称・所在地）
第1条　本会は鳥羽商船同窓会と称し、本部を鳥羽商船高等専門学校内に置く。
（組織）
第2条　本会に本部と支部を置き、本部は同窓会運営に関する重要な事項を決議する理事会と同窓会事務を処理する事務局で構成する。

第2章　目的及び事業

（目的）
第3条　本会は会員相互の交流・親睦を図ると共に、母校の発展に寄与することを以って目的とする。
（事業）
第4条　本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(1)　同窓会誌及び会員名簿の発行
(2)　前条の目的を達成するために必要と認められる事業と活動

第3章　会員

（構成）
第5条　本会は鳥羽商船学校・鳥羽商船高等学校・鳥羽商船高等専門学校並びに鳥羽商船高等専門学校専攻科出身者を以って構成する。
（種別）
第6条　会員を次の通りとする。
(1)　正会員　　母校を卒業した者
(2)　名誉会員　　特別な功労があり理事会の議を経て推薦された者
(3)　特別会員　　母校を中退した者で理事会の議を経て推薦された者
(4)　準会員　　在校生

第4章　役員

（種別）
第7条　本会本部に次の役員を置く。
(1)　会長　　1名
(2)　副会長　　若干名
(3)　事務局長　　1名
(4)　支部長　　各支部1名
(5)　理事　　50名以内
(6)　会計監査　　2名
(7)　理事会の議を経て、特別顧問・顧問または相談役を置くことができる。
（職務）
第8条　役員の職務は次のとおり
(1)　会長は、本会を代表し会務を統括する。
(2)　副会長は、会長を補佐し、会長事故ある場合はその職務を代行する。
(3)　事務局長は、本部の事務局を統括する。
(4)　支部長は、支部を代表し支部業務を統括する。
(5)　理事は、会員の代表として本会の意思決定に関与する。
(6)　会計監査は、本会の財務を随時監査し、決算に関する監査結果を理事会に報告する。
（選出方法）
第9条　役員の選出は次のとおり
(1)　会長は、理事のうちから理事会で選出し、総会で承認する。
(2)　副会長は、理事のうちから理事会で選出し、総会で承認する。
(3)　事務局長は、理事のうちから会長が指名し、理事会で承認する。
(4)　支部長は、理事のうちから支部にて選出し、理事会で承認する。
(5)　理事は、正会員のうちから支部にて選出し、理事会で決定する。
(6)　会計監査は、正会員のうちから会長が指名し、理事会で承認する。
(7)　特別顧問・顧問または相談役は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
（任期）
第10条　各役員等の任期は2年とし再選を妨げない。但し、辞任または欠員補充により選出された者の任期は前任者の残任期間とする。

第5章　理事会

（理事会の開催）
第11条　会長は毎年1回定例理事会を開催する。
2　会長が必要と認めた場合若しくは過半数の理事より要請があった場合は臨時理事会を開催する。
（理事会の構成）
第12条　理事会は理事を以って構成する。
（理事会の成立）
第13条　理事会は理事の過半数の出席を以って成立し、理事の出席は委任状によることができる。
（理事会の機能）
第14条　理事会は会員を代表し次の事項について審議・決定する。
(1)　年度予算及び決算
(2)　事業計画の基本事項
(3)　財産目録
(4)　会則の改定
(5)　役員の選出及び特別顧問・顧問または相談役の推薦
(6)　その他、理事会が必要と認めた事項
（理事会の議長）
第15条　理事会の議長は会長とする。会長事故ある場合は副会長が代行する。
（理事会の決議）
第16条　理事会における決議は、委任状を含む出席者の過半数を以ってこれを決し、可否同数の時は議長の決定による。
2　財産の処分、その他重要な事項の決定は出席者の3分の2以上の同意を要する。
（理事会の記録）
第17条　理事会においては議事録を作成し出席者氏名員数を記録する。

第6章　支部長会

（支部長会の開催等）
第18条　会長が必要と認めた場合若しくは過半数の支部長より要請があった場合は、会長が招集し、開催する。
2　支部長会は会長・副会長・支部長及び事務局長を以

って構成する。
3　支部長会は構成員の過半数を以って成立し、支部長欠席の場合は代人理事の出席を認める。
4　支部長会の議長は会長とする。
5　支部長会は各支部間の意思疎通を図ると共に、理事会に次ぐ決定機関として同窓会運営上の諸問題を審議・決定し、重要事項は理事会に報告する。
6　支部長会における決議は、出席者の過半数を以ってこれを決し、可否同数の時は議長の決定による。

第7章　総会

(総会の開催等)
第19条　会長は毎年1回定例総会を開催する。
2　会長が必要と認めた場合若しくは理事会又は支部長会で決議された場合は総会を開催する。
3　総会は正会員の30名以上の出席を以って成立する。
4　総会は理事会での決定事項を承認する。

第8章　事務局

(事務局の目的等)
第20条　本会の事務を処理するため、事務局を設置する。
2　事務局は事務局長及び事務局員を以って構成し、事務局長は理事のうちから会長が指名し理事会で承認、事務局員は理事若しくは正会員のうちから会長が指名する。
3　理事会の議を経た場合は、事務業務臨時職員の採用や事務業務を外部委託する事ができる。
(事務局の業務)
第21条　事務局の業務を次の通りとする。
(1)　同窓会会費の徴収及び会計管理
(2)　データーベース管理
(3)　本部行事（総会、理事会、支部長会、懇親会など）の準備
(4)　同窓会報発行
(5)　会員名簿発行
(6)　学校との連絡及び情報交換
(7)　同窓会ホームページ管理
(8)　同窓会事務の外部委託業者管理
(9)　その他
2　事務局の運営に関する事項は理事会の議を経て会長が別に定める。

第9章　委員会

(委員会の設置)
第22条　本会の事業・活動に必要な場合、会長の要請または理事会の決定により正会員を以って構成する各種委員会を設置することができる。

第10章　支部運営

(支部役員等)
第23条　会員は現住所を管轄する支部に所属する事を原則とする。
2　支部長以外の支部役員は正会員のうちから支部にて選出し、理事会に報告する。
(支部の業務)
第24条　支部の業務を次の通りとする。
(1)　支部管轄地域内における同窓会活動の推進
(2)　支部行事（総会、役員会、懇親会など）の開催及び本部への連絡
(3)　支部会員の状況（異動、慶弔など）の把握及び本部への連絡
(4)　支部活動費の管理及び本部への報告
(5)　同窓会ホームページ「支部のページ」の管理
(6)　支部所属会員の同窓会費納入の促進
(7)　本部理事の選出
(8)　その他
2　各支部の業務運営に関する規定は各支部が定める。

第11章　会計

(会の収入)
第25条　本会の維持運営は入会金、会費、寄付金及びその他の収入を以ってこれに充てる。
(金銭管理)
第26条　入会金、会費、寄付金及びその他収入の金銭管理については理事会の決議を経て安全確実な金融機関に預金する。
(金銭の支出)
第27条　経費の支出にあたっては理事会の承認を得るものとする。但し、理事会の承認を得る時間的余裕のない緊急の支出については会長が承認し、次回開催の理事会において報告・承認を得るものとする。
(会計年度)
第28条　会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第12章　附則

第29条　本会の運営に必要な細則は理事会若しくは支部長会で制定、改正する事ができる。
2　本会則の改正は理事会で審議・決定し、総会にて報告若しくは文書にて正会員に通知する。
3　本会則に定めのない事項は理事会において審議・決定する。
(施行期日)
1　この会則は、平成20年6月8日から施行する。

鳥羽商船同窓会運営細則(改定)

平成21年度6月総会において一部変更されました。

(支部名称と管轄地域)
第1条　全国を8支部に分割し、支部名称と管轄地域を定める。
(1)　北海道支部　北海道地方
(2)　東日本支部　東北・関東地方、静岡県の一部
(3)　中部支部　中部北陸地方、静岡県の一部
(4)　四日市支部　三重県の北中勢地域
(5)　伊勢志摩支部　三重県の南勢地域
(6)　大阪支部　兵庫県を除いた近畿地方
(7)　神戸支部　兵庫県、岡山県の一部
(8)　西日本支部　岡山県の一部を除いた中国四国九州地方
(副会長)
第2条　副会長は若干名となっているが、当面副会長は4名体制とする。
2　副会長の担当支部を定め、会務遂行にあたる。
(1)　田中副会長　北海道支部、東日本支部
(2)　竹川副会長　中部支部
(3)　中澤副会長　四日市支部、伊勢志摩支部
(4)　藤本副会長　大阪支部、神戸支部、西日本支部
3　会長はあらかじめ職務代行副会長を指名しておき、

指名なき場合は副会長間で協議する。

（支部長）

第３条　支部長は支部数名となっているので、現行支部長８名体制とする。

２　安定した支部活動を推進するため、支部長は２期４年以上の期間とする。

（理事）

第４条　各支部選出の理事数については当面次のとおりとする。

(1)	北海道支部	2名
(2)	東日本部	10名
(3)	中部支部	6名
(4)	四日市支部	4名
(5)	伊勢志摩支部	13名
(6)	大阪支部	6名
(7)	神戸支部	3名
(8)	西日本支部	2名

（顧問）

第５条 会長経験者は理事会に諮り名誉顧問とする。

２　母校教職員のうち、学校長、副校長及び事務部長の職にあり、本会の趣旨に賛同する者で、理事会で承認された者を特別顧問とする。

（理事会）

第６条　定例理事会は原則として毎年6月に開催する。

２　定例理事会等の開催日時及び場所については事前に理事会若しくは支部長会で決定する。

（支部長会）

第７条　原則として定例理事会との重複を避け、年1回以上開催する。

（支部運営）

第８条　各支部には、副支部長・幹事・支部事務局・支部顧問等、支部業務運営に必要な支部役員をおくことができる。

２　支部業務運営に必要な支部規定を定めた場合は、理事会若しくは支部長会で報告する。

（会費）

第９条　入会金は1000円とする。

２　会費は年額2000円とする。　但し、夫婦会員の場合の会費は1名分とする。

３　終身会費は20000円とする。（満65歳以上で会費を完納している者）

附　則

１、この細則は、平成21年6月14日から施行する。

表彰及び慶弔細則

（表彰）

第１条　特に顕著な功績のあった会員には理事会若しくは支部長会において協議の上、表彰する。

２　表彰は表彰状若しくは感謝状を贈呈し、記念品を贈呈する事もできる。

３　表彰は支部長が内申し、理事会若しくは支部長会で決定する。

４　表彰は総会において行うことを原則とする。

（慶事）

第２条　特別の事情により祝意をあらわすこと及び式典の参加などの慶事については、会長と支部長が協議若しくは理事会で協議・決定する。

（弔事）

第３条　会員の逝去に際しては、会長と支部長が協議し、支部より会長名の弔電を贈る。

２　特に顕著な功績のあった役員には会長の判断で生花・香典を贈ることができる。

附　則

１、この細則は、平成20年6月8日から施行する。

旅　費　細　則

（旅費の支給）

第１条　次の場合は旅費を支給する。

(1) 理事会及び支部長会出席のための交通費

(2) 同窓会運営に必要な会合出席のための交通費

(3) その他、会長の承認を得た場合の交通費

（旅費の支払い）

第２条　旅費は交通費のみの支払いを原則とし、宿泊費、日当等は支給しない。

２　交通費は主要駅間の実費とし千円以下を切捨てとする。

３　事務局は主要駅間実費一覧表を作成し、それに基づき支給する。

附　則

１、この細則は、平成20年6月8日から施行する。

学生募集のPR依頼

小子化の時代を迎え、義務教育以外の学校はいずこも学生募集に躍起になっています。特に大学は学生の全入時代に突入し、一段と厳しさを増しています。幸い母校は、入学倍率三倍と数字の上では他の高等専門学校を大きく引き離しています。しかし、将来の予断は許されず、学校としても学生募集のPRに励んでいます。

つきましては、より優秀な学生に入学していただくため、同窓会員のご協力を仰ぎたい所存です。学校にご連絡下されば、Ａ２版ポスター、学校案内冊子、学生募集要項をお送りしますので、下記宛ご連絡下さい。

独立行政法人
国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1　電話(0599)25-8404

ホームページアドレス http://www.toba-cmt.ac.jp　E-mail gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求(無料)は本校の学生課入試・支援係へ